

ふるさと上越ネットワーク会報

NO. **22** 2006.12



巻頭言「望郷」

「ネット理事

下山敏郎（名立区出身）

私の育った村は、旧西頸城の名立村の最奥の東飛山であった。海辺の名立町までは一六キロもある。上越市に合併してはつとしているが辺境であることには変わりない。

子供心で思ったことは、あの頃の町は遠い遠いところであった。年に一回も行けるかどうかであった。一方、分教場から見える景色は子供心にも開けていて雄大であった。分教場の正面にはいつも真白に雪をかぶった火打山が肩をいからしてすわり、その右には、焼山、左には妙高があった。今でも素晴らしい景色と思っている。

父母は分教場、上名立小学校の教員であり、住居は分教場の隅にあった。雪の降る半年間は本を読まばかりであった。分教場の二階の小さな図書室の本を読みつくし、部落の青年団の図書館の本も読み出した。「南総里見八犬伝」からはじまり、大人の本も読みつくした。早熟であり、物思ふことも多く、感受性も強かったと思う。

春は山菜採り。近くで何でも沢山採れた。夏は名立川でキウウリを齧りながら水遊び。水量も多く綺麗で「かじか」や「はや」がてぬぐいで面白い様にとれた。秋は山芋掘り。山路の土手にはあけびが沢山ぶら下がっていた。山菜の宝庫であった。

あの頃、子供達は世間から隔絶されていて名立谷から見上げる空の広がりだけが自分達の全世界であった。戦争のはじまる前の平和な時代であった。たんぼの土手に寝転んで空や山を眺めてよく口ずさんだ。

「山のあなたの空遠く、
幸いありと人のいう、
ああ、われひとりためゆきて、
涙さしくみ帰りきぬ、
山のあなたのなお遠く、
幸いありと人のいう。」

小学校四、五年の頃の夢多い多感な頃であった。

飛山と下瀬戸部落の中間地点に島田河原という場所があり、四、五本の木が立ち、小さな観音様の石があった。島田河原のおせんちゃんの幽霊の出るという場所である。盆踊りの好きなおせんちゃんだったが、ある年、大洪水と地すべりで家が流され、おせんちゃんも死んでしまった。盆が近づくと、おせんちゃんはやかたと白いてぬぐいをかぶり、夜な夜な踊るのだという。分教場から上名立の本校に通っていた頃、いつも道草をくいながら通ったものだった。しかし、一度もおせんちゃんの観音様に立ち寄った記憶はない。道路からわずかに五、六十メートルの距離であったが、子供心にもやはり気味が悪かったのであろう。

後年、ドイツに住んでいた頃、子供達はまた小さかった。よく島田河原のおせんちゃんの話聞かせた。家内も子供達も目を輝かせて聞いていた。そして帰国したら一度是非、名立に連れて行ってくれとせがんでいた。何年かたつて帰国し、飛山に連れて行った。既にバスが通っていた様子子が全く変わっていた。そして、島田河原は見過ごしてしまつた。

やはり、故郷は遠くにありて思うものであった。



名古屋新潟県人会と上越

「ネット相談役」

太田四郎（本町五丁目出身）

名古屋新潟県人会は愛知県や隣接県に居住する新潟県出身者およびゆかりの人々によって構成され、会員は現在約三百名ですが上越地区出身は約百名、中越は約八十名、下越は約一二〇名です。

一月の新年総会には二百名近く出席し、愛知県や新潟県庁ほかの来賓を迎え、お昼をはさんで三時間余アトラクション・福引大会など楽しみながらお国言葉で懇親を深め、最後は全員の「佐渡おけさ」で締めます。

その他日帰り旅行・一泊旅行・納涼会や名



県人会まつり

古屋だけでなく九月の全国県人会まつりなどで賑やかに親睦を深めています。

県人会の創立は百年前の明治四十年前後と推定されますが確たる資料が見当りませんので当時の地元新聞等を調べ

高田の金城會

古来雪の多いので、金剛に名を添かした新潟縣高田にて尾張出身者及尾張に縁ある者より組織せられた金城會は、其年會費を金銀器をば本月七日の夜、同地の料理店なる柳屋にて開會し、同々有益なる談話を交換したり、流石に名古屋の會合とて時々方角も出て、一阿を笑はせた。又は得意の名古屋甚句で物をめらして高田縣民を驚かすやうに、十二分の感を感じて、散會せし。當日會合せし重なる人を左記の通りなり。又事故の爲め不参者も七八名ありたり。

△尾張土師屋 二等主計兼事務之職△尾張中野大岡屋 吉川一高等加賀川口橋中村屋 中野屋 三郎 八郎 高田高等女學校校長中野屋 長男 高田高等女學校校長中野屋 長男 高田高等女學校校長中野屋 長男

因に市原氏は高田移住後既に十數年の星霜を経、現時高田町會館員の名譽職を担し同地にての有力家なり

高田の永治大曾 来る十一日午前十時より尾張高田町なる同停車場より約二十丁の場所に會場を設けて永治大曾を饗す由なるが當日は兵士學生其他各地遠手等參集して午前中、朝日山頂より練兵場に垂る三千六百米突の大滝走を詰め平地踏蹴走を父年後は陸軍道義走を履き善くにて同項目下の積雪五尺なれば四回周の參觀あるに物なく遠來客に對しては特に陸軍院にて相當の款待を爲すべく當場より會費者は當運荷事務所に就て高水水合する方便利なるべしと

ている処です。

名古屋地区には北海道から沖縄まで各県の県人会が現在三十六ありますが夫々の創立時期は明治から戦後までいろいろです。明治四十年前後の地元新聞には、他県人会の総会など開催記事がまゝ見受けられます。当時は鉄道の発達とともに軍隊や工場、高等教育学校などの太平洋側への集中化に伴い、地方からの人の移動交流が活発になり、各県の県人会、郷人会が発足し同県人が集まり親睦交流を深めたものと思われます。

しかし肝心の新潟県人会のルーツにつながるような記事が見当りませんが、明治四十四年一月十二日の名古屋新聞（現中日新聞）に尾張出身者（愛知県は名古屋以西の尾張と東の三河の国からなってます）の金城會が高田の料理屋柳糸郷で一月七日に開催されたと言う記事がありました。丁度その日の二日前の一月五日にはオーストリーからレルヒ少佐が高田に到着し、

スキー発祥の第一歩が

信越大雪降る

汽車不通なる

です。金城会の席上レール比少佐について話題になったかどうか知る由もありませんが、名古屋の地元新聞にはレール比少佐の記事はどこにも見当りません。当時とすればこれは当然のことだったのでしよう。



から高田は「雪の高田」で有名だったのだと改めて思いました。

大分、本題から脱線いたし失礼しましたが県人会メンバーで上越関係の方で名古屋地方で特に有名だった方々を御紹介します。

松尾信資 元愛知県副知事

県人会の第五代と第八代会長で明治三十九年生、北魚沼郡入広瀬村（現魚沼市）出身加茂農林卒業、独学で中等教員免許をとり、昭和七年から十五年まで高田中学で歴史の教諭をされ、昭和十五年高等文官試験合格、内務省入り、昭和二十二年愛知県に勤務されました。戦後の愛知県発展の礎を築いた桑原県政のもとで副知事として愛知用水建設などの大プロジェクトを計画実施されました。

本山亨 元最高裁判事

県人会の第六代と第九代会長で大正六年生、大島村（現大島区）出身、民事専門の弁護士として開業、戦後のトヨタ自動車、大同製鋼をはじめ大企業の労働事件に会社側弁護士としてかゝわり、その面での名古屋の重鎮として名を成されました。お人柄により昭和四十一年名古屋弁護士会長、昭和五十二年から五十七年まで最高裁判事を勤められました。

昭和五十年前後の県人会副会長で大正初期の生、蒲川原村（現蒲川原区）出身、明治四十年創業の山本屋本店社長として煮込うどんの古里の味を都会の人に味わってもらうため、「この道一筋」に精進され、みその香り、手打うどんの歯ごたえで好評を得、昭和三十三年以来市内に多くの店舗を出店し「みそ煮込うどん」を名古屋名物に仕立てられました。

お三人ともすでに故人となられてますが、新潟の県民性で「口下手で不器用、ひたむきな堅実さ」「豪雪との闘いであくことのない粘り強さ」そして「頼まれれば江戸まで餅つきに行く」を地で行く方々でこちらの評判もよく、名古屋の方からなつかしげに思い出話をお聞きすることがあります。

ふるさとの先輩が誉められるのはまことに誇らしいことであり、すがすがしい思いが致します。



市村彦一郎 元煮込うどん山本屋本店会長

また二月十三日の記事によれば十日からの大雪で汽車が止まった由、名古屋でもやっぱり昔

上越市の観光政策について

上越市産業観光部観光局長 村上雅巳

上越市は、長い歴史や自然に育まれた多くの個性豊かな魅力ある地域資源を有しています。人口減少の時代を迎え、多くの自治体が持続可能なまちづくりを目指し地域活性化に向けた取組みを進めている中、市ではこのような地域資源を活かすため、観光を重要な地域振興施策の一つと位置づけ、重点的に取組んでいくとしています。

そこで昨年度、「上越市第三次観光振興五か年計画」を策定し、今後五年間で取組むべき戦略的な観光振興施策を示しました。

計画は「上越市の知名度向上」及び「交流人口の拡大」を二大目標に掲げ、将来的には「住んでよし、訪れてよし」の観光立市を目指していくことを最終目標としており、現在その実現に向けてシティセールスや誘客事業などに積極的に取組んでいます。

特に国を中心に推進している訪日外国人旅行者数の増を目指す「ビジット・ジャパン・キャンペーン」と連携し、市でも昨年以降、旅行代理店の招

請やモニターツアーの実施のほか海外での営業活動を行ってきました。今年七月には、韓国から中学校の修学旅行誘致が実現するなど、その成果も現れてきました。

また、昨年度、国の「食文化を核とした観光的な魅力度向上による地域活性化調査」のモデル地区の指定を受け、上越



十月、十一月に行った「上越市ふるさとアピール月間」ロゴマーク

市の食資源を、市民をはじめ観光客が魅力に感じるようなブランドに仕立てていくことを検討しました。

その検討結果が今年十月に開催した酒まつり及びそばまつりに結びつきました。

また、今年の十月、十一月の二ヶ月間を「上越市ふるさとアピール月間」として、酒まつり、そばまつりのほか「城下町・高田花ロード」「直江津く関山間鉄道開通二二〇周年記念イベント」など、地域資源を活用した様々なイベントを開催しました。同時に、観光資源や直江津港のPR、企業誘致などシティセールスを国内外で行い、当市の知名度向上と交流人口の拡大を図るためのPRと、上越市の魅力の再認識及び市民の一体感醸成を図ってまいりました。



このような中、来年は、親鸞聖人が上越の地に上陸して八百周年にあたることや、上杉謙信公も登場するNHK大河ドラマ「風林火山」の放映など、上越市をアピールする絶好の機会であることから、アピール月間を拡大し、「上越市ふるさとアピール年間」と位置づけ、一年を通してさらに

徹底した上越市のPRを行っていくことを予定しています。

そのため、この十月から新たに産業観光部内に観光局を設置し、事業の推進と戦略的なシティセールスの実行に向けて体制を強化したところです。

今後、より一層観光事業を推進してまいります
が、Jネットの皆さんからも、引き続き上越市の
大使として市のPRに一役を担っていただき、「ふる
さと上越市」をアピールくださるようお願いいた
します。



台湾でのトップセールスによる観光PR



名古屋市金山駅における「上越市の観光と物産展」

崩れつつある 「コシヒカリ神話」

上越市食料・農業・農村
政策審議会委員

和久井博

上越地域の生産者は「コメのうまさは他地域に負けない」という自負に満ちている。下越のコメと一緒にして欲しくない」という生産者の声も聞かれるほどだという。

しかし、一九九五年の食料法施行で、「魚沼」岩船「佐渡」産コシヒカリのみがいゆるブランドで、上越産コシヒカリは、その他の一般新潟産コシヒカリに位置づけられている。しかし、上越産米は品質も良く、食味も良いとして、これまで市場でもてはやされてきた。

しかし、最近その新潟産コシヒカリにかげりが見えてきた。次の表は、JAえちこのパンフレットにあった表である。

新潟産コシヒカリは高価格であることもあり、販売不振で売れ残っている。

これは、いままでになかった現象である。

17年度産新潟米（コシヒカリ）の販売苦戦

～値頃感のある米中心の消費～

食味もほとんど値頃感のある北海道米が売れ、高価格米（新潟産コシヒカリ）は販売不振。

平成17年度直近の入札取引結果

(1等米)

産地・地区区分	第8回(1月)		第10回(3月)		第12回(5月)		第13回(6月)	
	価格(円)	落札率(%)	価格(円)	落札率(%)	価格(円)	落札率(%)	価格(円)	落札率(%)
新潟一般コシヒカリ	18,311	100	18,311	6	18,311	14	18,300	21
北海道ほしのゆめ	13,011	100	12,781	100	14,067	100	15,289	100
北海道きらら397	12,968	100	12,553	100	13,858	100	14,827	100

台頭著しい北海道産米

北海道産米といえば「きらら397」が有名である。寒冷地で安定的においしいお米を生産し、牛井の吉野家をはじめ、多くのファースト・フードのお店へ供給していることで良く知られている。しかし、生産者の多くは「コシヒカリに比べれば、食味が全く異なり、ファースト・フードの牛井やカレーライス向け」とたかをくくり、ほとんど心配していなかったのが実情である。

しかし、都会のスーパー等では、「まずくない」「北海道産のきらら397」等が安く売られていることで、若者や主婦層に買われたようである。高いけれど、「おいしい」「新潟産コシヒカリの購買層はもっぱら高齢者であり、必然的に食べる量も少なくなっている。

新潟産コシヒカリを超える道産米の出現

平成十八年十一月十二日(日)上越文化会館でシンポジウム「上越市農政研修会」が開かれた。

タイトルは「求められる上越米」と上越米のブランド化をめざして」とあった。

会場へ着くと資料と同時に大きな茶碗一杯分位のバック入り試食用のこはん

を渡された。北海道産米の「なつぽし」という。早速、自販機でお茶を買って食べてみた。味は、バックに長時間入っていたせいか、少しやわらか目ではあったが「まずくはない」。コシヒカリに近い食味である。おかずなしでお茶だけでまたたぐ間にたいらげた。

「ウーン、強敵出現!」というのが私の感想であった。

更に講演会の資料をみて、おどろいた。絵葉書で良く見る北海道の美瑛町で、新潟産コシヒカリに「おいつけ」「おいこせ」と生き残りをかけたおいしい米作りを精力的に行なっているという。魚沼産コシヒカリのタンパク質は五・八%、食味と軟らかさのバランスを考えると五・五%が下限で六%前後が理想だという。美瑛町では七・五%以上あったタンパク質をどこまで減らせるかを競い合い、順位を付けて発表するランキンク制度を導入した。今年のトップは六・五%だったという。また、道南のブランド米の「ふくりんこ」の生産者でつくる「函館育ちふくりんこ蔵部クラブ」はタンパク質が二年連続七・六%以上になるとその生産者は翌年はふくりんこを作付できなくなるというきびしいルールで米作りをしている。ちなみに今年は二〇〇人の生産者のうち、三人が脱落したとある。

北海道産米は既に一般の新潟産コシヒ

カリに追い付いたという。次は、魚沼産コシヒカリがターゲットで、これも数年内で実現するというから驚きた。

「三割減減」で安全・安心の上越米

J A えちご は、上越市等と協力し、県全体の作付面積(十二万ヘクタール)の一割以上にあたる一万三千ヘクタールで「三割減減栽培」に地域ぐるみで取り組む。「三割減減」とは農業と化学肥料をこれまでより、三割ずつ減らすことにより、上越米の「安全・安心」イメージを消費者へ訴えるのが狙いだ。今、県内でも多くの所が三割減減を計画しているが、上越は、それを一年前倒して実施したものである。背景には、いもち病に強い「コシヒカリB1」という品種が平成十七年から一斉導入されたことで、多くがすでに農業三割減を達成していたことがある。「三割減減」が実現したら、次は「五割減減」を目指すという。

安全・安心なJネットのお米を！

J ネットでは、上越の米づくりを応援すべく、「Jネット市場」でお米の販売をしてきており、購入者のメリットを考え、送料を無料(Jネット負担)にしている。よく誤解されるが、「無農薬だから、お

いしい」とか「有機栽培だから味が良い」といわれることが多い。どちらかと言えば逆で、農業や化学肥料を十分やった方がどちらかといえばおいしいお米ができる。だから、Jネット市場では多くの種類のお米を販売しているが、食味はそれぞれに異なり、ともすれば「うまくない」といわれるものもあるかも知れない。色々な情報を集め、ご自分に合ったおいしいお米を見つけていただけたら良いのではないかと思っている。

市場から消えた「ササニシキ」

商品は、消費者に嫌われたら、市場から撤退しなければならないのは、「お米」も同様である。一世を風靡した「ササニシキ」が市場から撤退したことは、良く知られている。上越米がブランドとして残るために、我々Jネットが微力ながら手を貸し、そしてコンシューマーとしての率直な意見を生産者に届けることが私達に期待されていることではないかと考える。

上越米をブランドとして大きく飛躍させるために、Jネット会員の皆様のアイデアやご意見を是非お聞かせいただければ幸である。



六十年目の再会 そして 「ふるさとツアー」 参加

八五五市

竹内孝（西城町一丁目出身）

昭和二十年の正月、いよいよ空襲が激しくなり、祖父の出身地高田に一家で疎開しました。二十年は大雪の年で堀端の家（西城町一丁目）は雪の中にすっぽり埋まっていました。前の堀は一面の雪の原。雪がきえると手前が田んぼ、中が葦の浮島、その先が蓮の生い茂る外堀になっていました。

小学三年の三学期から六年の正月まで、高田師範の附属に通っていました。冬はスキーを履いて堀を渡りだんし山で滑り、春のお城の桜は印象が薄く、それより浮島で鴨やパンの卵探しに精を出しました。夏は田んぼの畔道でトンボつり（キンヤンマ）、蓮の花は祖母に仏様の花と教えられ、清々しい姿と色彩が脳裏に刻まれました。真夏の浮島はヨシキリだけがけたたましい囀りを上げていました。その後

滅多に出会うことのない蓮の花と葦切りの鳴き声に遭遇すると、高田のお堀を思い出します。図画時間の写生ではお堀端に出て金谷山、なんば山を裾野にした妙高を画きました。秀麗な妙高の姿は上越の方は誰もが忘れられない山と思います。

今は浮島と田んぼは整理され、本来のお堀の姿になり、対岸に橋が架けられたと聞きました。浮島からのヨシキリの切なく激しい囀りは聞けなくなった替わりに、蓮の花は見やすくなったことでしょう。

ところで、蓮の花は夜明け前の闇の中で咲くのだそうです。その時、花の開く音がするそうです。この度再会した庄山さんか伺いました。高校のとき、どうしてもその蓮の花の開く音が聞きたくて、兄

の友達にバイクのお尻に乗せてもらい、晩間のお堀に三日通つてようよう聞いたそうです。「母もさぞ心配だったと思うのですが、気持ちよく出掛けさせて貰い感謝しましたとお話して下さいました。いいお話です。お堀の蓮の花は上越の心を育ててくれたのです。若い方達にこんな環境は更に整備して上げて欲しいものです。

父と祖父は終戦から間もなく焼け野原になった東京に戻り、敗戦が私を怖い親父から開放してくれました。上越は後にも先にもない伸々とした時代でした。そんなこともあってか、その後住んだ何処の土地よりも私は上越が好きです。

しかし乍ら、上越の方達との縁は遠のいてしまい、高校の頃二人の友達と会っただけで全く音信不通になっておりました。それがこの夏、皆様のご好意で見つけて戴き注、六十年振りの再会となりました。

子供の頃からの長い付き合いでは、途中で三年、五年と、時には十年間も会えないこともあります。「点々付合」とでも言うのでしょうか。それにしても、小学生で別れ、その後全く音信不通で六十年経過すれば浦島太郎です。仮に何か消息が分かっていたら、会う気には仲々ならないも



のと思うのです。ところが、七月に八名の小学生時代の仲間が迎えて下さったのです。その素早さと結束のよさは恐れ入りました。これは上越の皆さんの人柄に依るものと思いました。その一人からのメールには「おまん来なつたかねー。待つていたわね」の心境ですと書かれていました。嬉しい限りです。私も上越に本籍を持ち、お墓も金谷山にあります。ふるさとを上越にしているのですから、皆さんと同じ様に暖かい心で残りの時間を過ごしたいと思いました。

そして、今回の十月末の「ふるさと

ツアーへの参加となりました。いい旅でした。行きに内藤 實君と湯沢で一泊ぶらり居酒屋で一杯。旧友というには余りにも間が開き過ぎた二人でしたが、お互い何の気かぬもない旅のスタートが切れました。居酒屋はいい店でした。酒もつまみも美味く、おかみが美女で愛想がよく、娘さんはびちびちの器量よし。加えてお値段が格安でした。明日からのツアーが楽しみにになりました。

直江津の駅には青山 晃君（ネット会員）が出迎えてくれました。神戸から奥様と母上の見舞いに来られているとのことでした。牧地区は旧高田市内から離れており、私には初めての所でしたが、宮口古墳群は附属のとき何処であつたか古墳に行つた記憶を呼び戻してくれました。バスで上った牧峠への道は、狭い棚田を細く曲がりくねつた道が上へ上へと伸びており、前から車が来たらと心配しながら峠に着きました。広く開けた山の斜面一面にブナの原生林が広がり、秋空の下見事な景観でした。峠付近にはオオカミ観測の車が来ており、豊かな自然が残っている様です。人はこれ以上自然に踏み込まない様にしたいものです。

私はこの頃、どんな絶景より山あいの田んぼの見える景色が好きです。稲刈りの済んだ田んぼでしたが、牧地区は随所がいい景色を見せてくれました。

宿の深山荘に仲町の山本忠司君が訪ねてくれ、暫し、旦下部、庄山、杉臣夫妻、内藤君と旧交を暖めました。翌朝、朝市でちまきや大根くこのみ、乾瓢などを見ている内に、疎開していたとき、はたけの婆ちゃん」と採れ過ぎた野菜を朝市に売りに行ったことを思い出し、つい買い過ぎしてしまいました。

バスがお城の裏手まで来ると、旧友達が道の説明をしてくれたので、私の六十年前の記憶と重なりました。榊神社を右折すると道路は拡幅されており、立派なビルが並び、左折して青田川を渡つたとき、川幅の狭さに子供の見る目の違いを痛感しました。翁飴をお土産に買い、帰りは同級生4名で篠ノ井線の明科で一泊、安曇野のワサビ田、松本城で馬刺しで蕎麦、帰りの電車でゆつくり更に親交を深めて締めくくりました。いい旅でした。

上越の人の柄の良さは若い市役所の渡辺さんに引き継がれており頼もしく、上越はやっぱりいい町でした。

（注）1年上の有沢栄一氏（有沢製作所会長の同級の山本忠司君（高田高校の体操の名選手）に連絡をとって下さつたことで、東京の内藤 實君（ネット運営委員）が皆さんに連絡をして下さい下さつて六十年振りの再会となりました。

添文 消息不明の疎開仲間は何人もいます。が、びつくりしました。

私も背の高い大人しい子だったと記憶していました。

このような投稿に話題が昔にタイムスリップするでしょう。

七月の六十年ぶりの再会の席上、彼は田村玲子さん（大手町通りの田村スタジオの娘で現在は米国在住でまたま帰国中に昔の作文を渡していました）。

内藤



成島さんによる古墳の説明



10年若返りの清水



宮口古墳公園

牧区の秋

ひたちなか市

高橋武三郎（福岡出身）

去る秋晴れの十月二十八日、二十九日の二日間、秋の交流会に妻と二人で参加させて頂きました。

当日は、早朝四時に車で家を出て磐越道経由で直江津に向かい実家で一休みしてから集合場所の直江津駅に行ったら駐車場が満車であり、急遽実家まで戻り駅まで送ってもらい集合時間に間に合った。

最初にそば祭り会場に案内されたが、あいにくと途中でそばを食べてきたばかりなので、旨そうなそばであったが見るだけにしておいた。引き続いて牧区内の観光へと移ったが、牧区内の案内人として乗車して来られた成島継紀氏の牧への思い、郷土への愛情、そして郷土史の造詣の深さ、はたまたそのウィットに富んだ話術にただただ感心させられて、聞き惚れてうなずくばかりの一時でありました。

しく感じる旅でもありました。残念であったのは時間の関係で牧歴史民俗資料館を見られなかった。

バスはさらに山中へと進みミニイロハ坂と言われる牧峠へと向かい、途中から見える高田平野のなんと美しい事が、またブナ林の美しさ、山間に点々と見える集落、まるで一幅の絵を見ている様であった。

今宵一夜の宿となる深山荘での食事の旨かったこと。盛りだくさんの見事な山菜、思わず皿皿もお代わりをしてしまいました。そして地元の方の優雅な舞を見ながらの牧ならではのドブロクと地酒を飲みながらのカラオケあるいは会話と楽しい食事であった。

翌日は原地区の明願寺見学、このお寺を基地として日本で最初の有線放送が始められていたとは、これもまた始めて知ったことであった。昔懐かしいラジオや写真、そして蔵書の数々、このままにしておくと勿体無い、なんとか観光資源にならない物だろうかと思っても見たがいかがであらうか。

ソバ打ち体験も楽しい思い出でした。なかなか滑らかに捏ねあがらず、切れば

うどんの様に太い無様なソバになってしまったが食してみればなんといいえない味であった。



今回の交流会は私に取ってみれば、まさに「歴史発見」の旅でありました。同行した茨城生まれ茨城育ちの妻も大変満足し、次回もぜひ参加しようとする意気込みです。野菜と一キログラム入り米十二袋、ドブロク一本をお土産に直江津駅に到着、その日の夕方は小学校のクラス会が越後湯沢にて開かれ参加のため車で移動しました。

今回は二つの旅が重なり、とても有意義な旅と成りました。来年は高田の桜を見たいなあと思っています。

最後に、お世話くださいました皆様方に感謝の心をこめて詩を献上致します。

シベリア引揚者の読める「ふるさと」

ふるさとの山はなつかし
ふるさとの川はなつかし
疲れたる心抱きて
足重く帰り来たれば
ふるさとに山はありけり
ふるさとに川はありけり
ふるさとに父はなつかし
たらちねの母はなつかし
幼児の心になりて
身も堅く門をくぐれば
すこやかに父はましけり
なごやかに母はましけり
ふるさとの友はなつかし
ふるさとの土はなつかし
こみあぐる涙のみのみ
友の手をしかと握れば
あたたかく友はありけり
やわらかく土はありけり



眺望を楽しむ



お部屋での2次会



カラオケ風景



日本初の有線放送の説明



日本最初の有線放送の機具



粉をこねて、



説明を聞き、



のばして、



こねて



のばして、



のばして、



お腹に入れました。



切って、

切って、

故郷があることの幸せ

昭島市

佐藤光子（東城町二丁目出身）

一昨日、昨日のふるさと交流会、とても楽しい二日間でした。あのように山のすま上越市だということに驚き、ご案内いただいた牧区の成島維紀様の熱心な解説に、知らなかったことが沢山あったことを学び、湯量たっぷりの温泉に身を沈め、おいしい「馳走」楽しい宴会での交流……、それぞれを満喫させていただきました。

どんなにお金を積んでも買うことのないあの秋晴れ！ 見事な紅葉！ 薄原！ 山頂からのうぶすなの地の俯瞰！ まさに、浮世離れの初日でした。

直江津で解散後、折角帰省したのだからと、いつも参加している私たち北城高校の四人組は、寺泊まで足を伸ばして海の幸を堪能しました。わが故郷が、山海の幸に恵まれた自慢の地であることを、今年もまたこの交流会をきっかけに、実

感じ合い、感謝し合ったことでした。

寺泊でもう一泊した関係で、蕎麦打ちした「傑作」を味わうのが、皆様より遅れて今夜になってしまいました。その間、旅館の冷蔵庫に密封状態にして入れ、帰りの道中は、魚市場の水を抱かせて大事に持ち帰り、今夜家族に披露致しました。少しばらばらとしていて、つながりに欠けましたが、お味はパッチリ！「食べてみた？」「美味しかったね！」「精進揚げ、何で作った？」「蕎麦好きの夫が美味しくて。大方、夫の胃袋へ消えてしまったわ！」「今度は、うちでも作ってくれて言うのよ」などなど、食後にメールや電話が行き交いました。

秋の交流会を発案されたという松川様を初め、大変な努力を提供してくださった関係者の皆様に改めて厚くお礼を申し上げます。そして、「こんなに楽しい企画

に、もっと大勢の方々が参加されたいいのね」と言い合い、今からもう「次の企画は何かしら」と楽しみにしている私達なのです。



深山荘よりの眺望

越後謙信SAKEまつりを 終えて

越後謙信SAKEまつり実行委員会
(株)武蔵野酒造 代表取締役社長

小林 元

初めての「越後謙信SAKEまつり」が開催されました。このまつり開催の目的は「酒」を地域の宝として全国に発信をし、酒や地場産品が売れることの経済効果はもちろんのこと地域外の人が集まる事による外貨獲得や上越エリア全体の個性化の一躍を担うことであります。正に木浦上越市長が提唱している「上越ブランド」の創出です。

今回は十月二十八日・二十九日の二日間、高田本町商店街を歩行者天国にしての開催でした。二十八日、お昼よりテントの設置が始まりいよいよ戦闘開始です。合併した上越市及び妙高市のエリアから清酒製造蔵十九蔵、ワイン一社、ビール二社、とぶろく三社が出展をしたのを始め、二十を越える地域地場産品を中心とした品のブースも出展をしました。

お客様が本当に来ていただけるかとい

う不安を打ち消すように十五時の開始時間を待たず大勢の人たちで本町通は埋め尽くされました。五〇〇円で試飲グラスを購入頂くと各ブースのお酒が試飲出来るシステムにしたので本町通はグラス片手にほろ酔いの人々の行列となりました。各ブースでは期待はずれ(この大商いで商品の品切れが続発、補充に東奔西走しておりました。また、この日のために仕込んだ新酒越後謙信まつりSAKE)は二時間を待たず品切れとなり関係者をビックリさせました。

音楽にも酔っておりました。この日はお天気にも恵まれ大きなトラブルもなく終了することが出来ました。

二日目は午後より雨の予報もありましたが朝から快晴となりました。この日は十時から十五時の開催です。若干、人出は昨日よりは少ない感じでありましたが日曜日と言うことでファミリーでの来場が目につきました。特設ステージでは地元ミュージシャンによるジャズ、津軽三味線、アカペラなどが披露され盛り上がりを見せておりました。昼前後には昨日同様の状態で食のブースでは品切れが続発してお客様からのクレームもありました。何とか天気も持ち、終了の十五時を無事に迎えることが出来ました。この二日間で約三二、〇〇〇人を集客することが出来ました。

今回は本町との連携も目的の一つになっており、オリジナルのお得な買い物券の発売、店の中に酒ラベルをおいてのラベラリー、それぞれの町内会での鍋などの企画もあり各店舗の売り上げアップにつながっているものと確信をしております。

来年は今年をベースにもっともつと経済効果が上がるとな仕掛けを考え開催する予定です。そのためには地域の宝をまず地元の皆様から評価いただき、誇りを持って全国に発信できるSAKE

まつりにレベルアップしなければいけません。皆様方への協力をお願いし報告とさせていただきます。



小林元さん

大盛況だった 「上越そばまつり」

十月二十八日(土)句菜交流館「あるるん畑」(上越市大道福田)で上越の味自慢の蕎麦十一種類が食べ比べられる「上越そばまつり」が開催された。Jネット交流会の参加者も宿泊場所の牧区深山荘へ向かう途中で立ち寄った。予想を超える大賑わいで午後一時の時点で売り切れ店が続出。我々が着いた頃にはほとんど閉店。唯一やっているとところも長蛇の列で試食を断念した人も多かったようだ。

上越市によると、来場者は三、五〇〇人にのぼったという。上越市が誇る北陸研究センターの新品種「とよむすめ」の無料試食は約三十分で予定の一五〇食を終了し、一杯二〇〇円の蕎麦が全十一ブースで五、六五四食分が販売されたという。

Jネットの交流会参加者も短い時間だったにもかかわらず、大いに楽しんだようだ。ほとんど売り切れだったこと

もあり、「蕎麦は雰囲気食うもの、雑踏の中では気分が出ない。」「量が少なすぎる。これでは食べた気がしない。」など辛口の意見も聞かれた。

私も蕎麦好きで、数週間ほど前に松本城で行われた蕎麦祭りに参加した。そこらは一杯五〇〇円だがきちんとした筑(さき)にのつて、量も普通の蕎麦屋の大盛りくらいはあった。それぞれの店が大きなテントの中に客席を用意し、店頭で蕎麦打ちの実演、奥でゆでたものを出してくれる。原則、売り切れは無い。一日五十万人を超す入場者?だといふからほとんどが外からの観光客のようだ。

上越の「蕎麦まつり」も今回の大盛況を背景に他県から人が来る催しにまで発展させて欲しいものである。

(編集部)



「高田花ロード」

十月七日(土)〜九日(月・祝)に、高田の市街地(本町通)で、第八回城下町・高田花ロードが開催された。生け花や鉢植え、フラワーアレンジメントなど、花をテーマにしたアート作品が本町商店街の店先に展示され、街を花で彩り、包み込んだ。

今年の花ロードのテーマは「辻を大切に」。高田の南北の通りを結びつける辻にスポットをあて、花の作品を飾った。会場を訪れた街の人々は、写真を撮ったり、作品を鑑賞したりして、アート通りとなった花ロードを満喫していた。

私はたまたま帰郷する機会があり、三時頃に会場へ着いた。写真を撮りながら会場を二巡した。終了までにまだかなり時間がある筈が、会場ではすでに撤去作業が始まっており、すでに壊されてしまった作品もいくつかあった。プロの力

メラマンらしき人が大慌てで写真を撮っていたのが印象的だった。

「花ロード」のときだけ花を飾るのではなく、この日をきっかけにずっと街を花で飾るそんなゆとりが欲しいものだと思う。

(編集部)



桃栗三年 蓮も二年

さいたま市

安藤三郎（東本町三丁目出身）

二冬を過した我家の蓮が淡紅の花弁で優雅に御目見得しました。

平成十六年四月市役所から頂いた種が発芽し、五月初旬定植中旬に「浮葉」なり、七月以降は立葉となりました。浮葉の径は三・七cmから八cm立葉の最大径は二八cm茎長は三五cmでした。

平成十七年三月十九日植替、この時の種蓮根の径は二cm程だった。もしや今年花がと願いながらの作業だったがそれは叶わなかった。それぞれの最大は葉径四〇cm茎長九五cmでした。

今年三月十九日径六〇cm深さ三〇cmの左官用のプラスチック製の桶を加えて、計三鉢に定植した。貧弱なものは捨てたのだが可哀想になり、これにはありあわせの容器に植えて置きました。

七月七日親指程の蕾発見。それから

嬉しくなつて毎日四〜五回の見廻りをしました。ところが長雨と低温それに降雹もあり膨らんだ花弁の頂部が腐り、二十一日開花はしたが雨にうたれて半日もたず全部散りました。知人に蓮見の宴をやります」と吹聴していたので面目まるつぶれの想いでした。他の鉢には蕾の微候なくそれなら咲く迄待とうの心境となり灌水怠らずの毎日でした。

八月九日隣の鉢に蕾発見十二日完全開花二十一日に散りましたが、少し遅れて又蕾が出て美しく開きよこび益々でした。

植替に先立って日当りを良くしようと二十五年前に植えた木も伐つたのですが、鉢の配列が悪く日蔭の鉢のものは成長も悪く蕾も出ませんでした。来年は鉢の配列も改善しようと思っています。今年の

最大は葉径四八cm茎長一・四mでした。

追記

埼玉県坂戸市の運動公園の華麗な蓮は今年が盛りである。これは平成十二年蓮で有名な上越市に依頼寄贈を受けたものであるとの記事が此方の新聞に出ていました。折を見て訪ねたいと思っています。

・蘭は完熟すると発芽しにくいので、未熟なものを発芽させ培養すると聞いていたので、蓮の実の緑色と少し黒ずんだもので試しました。実の両端を削り実と同じ高さ迄水を浸しておいた所黒ずんだ方は



三日程で発芽、その後の四日程で、四〜六cm程に伸びましたが緑色の方は発芽しませんでした。その後径三cm程の可愛い浮葉になりました。今越冬方法を考えています。可成りの生長促進でうまく行けば二年で開花かと思っています。

・法事で帰省した時お坊様に蓮の話をしました。話だけではと思い十二大劫であればよいのですがと書添えて写真をお送りした所、睡蓮でなく蓮にする事にし種から始めようと思うとの電話がありました。三年はかかりますから種蓮根を送りますと返事しました。蓮のウターンでしようか、それとも故郷に錦を飾る事なのでしょう。想像を逞しくして居ます。

郷里を想い父母を偲ぶ

名古屋市長

大坪満男（三和区弘沢出身）

ふるさと、何と心にしみ、こころ良い言葉だろうと思う。郷里を遠くはなれて暮す者だけに味わえ、与えられる特権だと思う。しかも、その郷里には都会の雑踏ではなく清らかな川と山がある。そして暖かい人情がある。そんな郷里がある私は幸せである。

小生、まもなく古希を迎えようとしている（昭和十二年生まれ）。十五歳で郷里をあとにして五十五年、良きにつけ悪きにつけ、常に想うのは十五年しか過ぎなかつたが越後上越三和である。

なぜなのだろうと自問自答を試みる。五十年前にくらべ幹線道路が変わったくらいで景観もほとんど変わっていない。清らかな川があり山があつて、父母が眠り、姉兄がいてくれる。こんなにすばらしい郷里がある私は幸福者だと思う。年に一度は父母と先祖のお墓参りに帰郷する

が、高田駅に降り立つとなぜかほっとして心がなごむ。また今年も元気に帰郷できたことに感謝しながら…。

今年も八月二十五日から三日間帰郷した。今回は六人いる孫の中から年の小さい順に三人の孫を連れて行った（孫は上から男子二十一歳、男子十八歳、男子十四歳、男子十二歳、女子十一歳、男子九歳）。どうしても自分を育ててくれた郷里を知ってほしくて…。

私の思っていた通り、おさない孫達三人もわずか三日間ではあつたが、三和弘沢の空のおおさと山のみどりと川の清らかさと人の心の温かさを満喫し、大満足して心に刻んでくれた事と思う。この子たちが、大きくなつても上越三和のことを思い出してくれることを信じている。「おまんがいて「おまんた」が「いる」から、いつ帰郷しても、また帰郷できない

ときでも三和弘沢は私の心と人生の郷里である。

私が物心ついた頃には、父は出稼ぎでほとんど家にはいなかった。姉、姉、兄、私、妹の五人の兄弟だが、私が生まれた時も、父は満州今の中国に出稼ぎに行っていた。「母」、「男子生まれた。名前は」と電報を打つ。父から「満男にせよ」との電報。父は、自分が満州にいたので私を満男としたと、のちに母から聞かされた。

私どもの父母は、そんな家庭だったのだで大変苦勞の多い人生だった事を母に良く聞かされた。しつけにはかなり厳しい父母だったが、併せて深い愛をもつて私どもを育ててはぐんでくれた。そうした父母がいてくれたからこそ、今日の私たちがあつたと思う。そんな父母の喜ぶ笑顔が見たくて、頑張れたと思う。そして、あの名曲「ふるさと」を幾度となく口ずさんだことか。「兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川」。郷里と、今は亡き父母と、その父母の晩年を見守ってくれた姉兄たち

に心より感謝。



名古屋サロンの前後

杉野 隆

内藤 實（本町六丁目出身）

九月の名古屋での交流会に参加させてもらいました。

昨年は大阪、今年は名古屋と二年連続で思いがけないチャンスに恵まれました。折角の機会ですから、今年は名古屋の会の前に、奈良の明日香村の近くの三光丸と天山の明治村を訪問しました。

三光丸は昨年大阪サロンに、ご夫妻で参加された浅見さんが「クスリ資料館」の館長をしておられる和漢薬の老舗です。前会報二一号で、貴重な資料で上越と置き薬の関係を語っていただきました。

新薬の開発で大手製薬メーカーが生死をかけている昨今、三光丸は鎌倉時代からの和漢の胃腸薬一筋で、伝統と歴史を守り抜いておられます。また資料館の太い柱と土塀の建物と庭に長い歴史を感じました。

昔は行李を背負って全国を廻られたわけ、高田・直江津・新井の宿帳が展示してあります。

館長の奥様は直江津出身の方で「ネットの会員です。四国八十八箇所」の公認先達者として活躍されています。

資料館の周りには古墳もあり遺跡や文化財が多い土地です。皆さんも資料館を見学して遺跡めぐりをされては如何ですか。

余談ですが、クスリは一発当たると、大儲けすると言われていますが、三光丸も一時宣伝文句に「牛馬にも効く」と入れたら、爆発的に売り上げが伸びたそうです。多分、牛や馬を家族以上に大事にした東北地方の大昔の話でしょう。

次に、天山の明治村は高田小熊写真館を訪ねました。

明治末期に建てられた建物がこの地に移され永久保存されています。

豪雪に耐えた建物に「ご苦労さんでした」と労いたいです。

採光のためにスタジオの屋根がガラス張り、白黒の天幕が垂れ下がり昔を知る者にはたまりません。

写真館の隣りにライト設計の帝国ホテル玄関があります。

今度の旅は、新薬の時代に和漢薬の足跡をたどり、デジカメ時代に写真館の保存を目の当たりにして、私にとって、交流会の意義は大きかったです。



皇居奉仕団に参加して

府中市

金澤一男（大町五丁目出身）

私の所属する日本ウォーキング協会は、十月三日から四日間、皇居奉仕団にはじめて参加しました。

七十才の年齢制限に近い私は、最後の機会と思い応募し運良く選ばれました。同じ思いの選ばれた同僚二十七名と行動を共にしました。

十月三日 結鞭門から入門して奉仕団の集合する窓明館（休息所）で説明を聞き、宮内庁の職員案内で、一般参賀で天皇皇后陛下等皇族の方がお立ちになる宮殿正面東庭及び宮殿中庭を案内していただきました。普段見る事が出来ない場所を見て感激しました。その後中庭の落葉除草の清掃、天皇陛下の散策通路整備の仕事をして、二重橋の近くで記念写真を撮りました。

昼食は休所窓明館でとり、午後も同じ

公務の間の会見でした。このあと皇太子殿下は東京湾の港と水辺のまちづくり等状況を視察に出かけられた。夕方帰宅してテレビを見たらか会見時と同じ背広であつた。

園遊会会場で記念写真を撮る。

午後五時前中と同じ作業であつた。

仕事を行い作業は午後三時頃終了しました。各所での人数確認は厳しく行われました。

十月四日 皇太子家の住宅赤坂御所で奉仕作業です。朝から曇で、いまにも雨が降り出しそうでした。

赤坂御用地青山門より皇宮警察官の人数の確認を受けて中に入る。

春秋天皇陛下主催の園遊会が開催される場所まで案内され、宮内庁職員の方御所の中の説明を聞き、園遊会時主会場の除草清掃を行う。

昼食終了後各奉仕団は、東宮御所事務所会見の間に行き、皇太子殿下と会見する。

奉仕団の団長のみが皇太子殿下と言葉を交わしました。私は前列で皇太子殿下とは二メートル位の距離。十分足らずの

十月五日 再び結鞭門より入場し窓明館（休息所）に行く。本日の作業は皇居東御苑の中である。途中から雨が降り出した。皇居東御苑の歴史の説明城壁のつくり及び松の廊下、樹木の説明、旧本丸等、二の丸庭園、都道府県の木、昭和天皇陛下の親しまれた武蔵野の面影を残す森木等案内説明していただきました。

晴れ間を見て三〇分位、二の丸庭園の雑草除草を行い、午前中作業終了。

昼食のため窓明館に行く。

皇居東御苑はどなたでも入門無料で入ることは出来ます。

雨がはげしくなり、午後の作業は中止となりました。

午後二時天皇皇后陛下は車で吹上御所より到着され、奉仕団の団長にお礼を言われ、会見は終了した。

午後雨がはげしく降り出てきたが、私達ウォーキング協会の所属団体は本部のあるお茶の水駿河台まで、雨の中

オーキング。それぞれは結鞭門から半蔵門、千鳥ヶ淵、九段下、神保町、日本ウォーキング協会約6kmウォーキング。その後全国から来た人達のために午後五時よりホテル懇親会が開催され、親睦を深めました。

十月六日 朝から雨が激しく作業は中止。普段一般の見学者は入ることの出来ない西詰橋より入る。

途中思いがけずに立川の昭和記念公園に出かけられる天皇皇后陛下のお車を見送る事が出来ました。両陛下は車の窓を開けられてにこやかに手を振られていました。大変印象深いものでした。

ますます雨が振りだしてきました。

宮内庁の盆栽、賢所の神社、天皇陛下が毎年田植をされる場所等を見学しました。

全国から集まった歩く仲間達と別おしんで皇居奉仕の旅は終了しました。皇居内では撮影は禁止です。

また機会をつくり、元気で奉仕に参加したいと思っています。



友をたずねて三千日(第四回)

横浜市 中村眞和(直江津町出身)

最近になって昔の写真が出てきた。それは小学三年二組 佐藤幸子先生、昭和二十四年三月、六年二組(清水茂夫先生、昭和二十七年三月)及び中学一年五組(徳山先生)の同級生全員の写真である。しかし、顔と名前が一致するのは数名である。ここに、卒業時の写真と同級生(計六四名)の名前を公表し、情報を募ります。私の目的は、三〇〇〇日(二〇〇七年十一月二十五日曜日)までに小学校の同期会を直江津で開催することです。ぜひ、協力をお願いします。

連絡先

Y-nakamura@nakanac.com

(TEL) 045-564-6800

(FAX) 045-564-6900

青山正司、伊倉 武、今村榮治、岩島正純、岩島龍一、上野 紘、青海松治、太田昭雄、大坪昭一、大平嗣嗣、笠原義晴、勝島徳雄、

金井龍生、金子 達、小林義勝、佐藤健治、佐藤容一郎、須藤裕夫、曾根 勇、高橋十四夫、竹内英雄、竹内正敏、田中 昭、寺島正毅、中村眞和、中山省三、新澤虎雄、藤間公一、松本和宏、丸山辰二、山岡 剛、山岸慶三、渡辺正男、渡邊英雄、海野池上英子、竹内(池田)榮子、佐藤池田啓子、小布施(石川)良子、仙田(石田)ミネ、伊藤(市川)千賀子、岩島伸子、岩島光子、植木テル、牛木恵津子、佐藤(金澤)美恵子、広瀬(金子)葉子、木曾幸恵、古田島十三子、小林テイ、萩原(近藤)裕子、笹川伸子、久野笹川悠子、佐藤文子、阿部(高橋)邦子、高橋久子、高橋みうた、塚田節子、中村徳永、芳江、中澤正子、中田豊子、水澤好江、市島柳澤厚子、山田ヨシ子、吉田明子、九九九から始まった三〇〇〇日の旅は、まだ続いている。

二〇〇六年十一月(2600日)



直江津小学校 6年2組(昭和27年3月)

十月の箱根を訪ねて

一夜城址と旧街道の石畳を歩く

横浜市 日下部治子（南城町一丁目出身）

「ネットサロン」での雑談中、藤澤さんが「東京の近くにも安く行ってこられる所があるんだよ」とおっしゃったのを聞きつけた私達は、是非そこへお連れ下さいとお願いをしました。宿の予約のとれた日が都合の悪い人も出て、参加できたのは藤澤さん、内藤さん、早川さんと私の四人でした。

踊り子号箱根フリー切符を求め、東京と横浜から乗車、小田原で下車して東海道線で一駅早川駅で降りて、いざ石垣山の一夜城址に向いました。

太閤農道と呼ばれる坂道を登りはじめた所で出会った珍事は上の方からみかんが次々に転がり落ちてくるのです。加速がついてまるで野球のゴロを捕球するようにとれたりました。坂を少し登った所でみかん農家の人がなり過ぎたみかん

を切落したのが弾んで道に転がり出たことがわかりました。

足を止めて二言三言交すうちに、別の木に移って切り取ったみかんを、この木のが一番美味しいと云って私達に手渡して下さいました。早速いだいて両側にみかん畑の続く坂道を登って行きました。坂の途中でふり返ると早川港が見ええました。

一夜城址への道は坂また坂でしたが、山男藤澤さんと、ゴルフやワンちゃんのお散歩で日々よく歩いておいでの内藤さんは足とりよく登って行かれましたが、何の鍛錬もしていない私達はよたよたとやつの思いで辿り着きました。

途中の道では数組のグループを見かけただけでしたが、一夜城址にはバスで来た団体客や車で来た家族連れに出会いました。穏やかな日でしたが山頂の空気は

キリツとして海岸線も美しく、直線で三キロといわれる小田原城も見渡せました。

昼食後城址を一巡してから坂道を下り、早川駅から小田原に戻り、駅前広場の騎上の北条早雲の像を見て、バスで箱根の宿へ。バス停前の宿で、この道はお正月の大学駅伝コースで宿の中からも見えるそうです。部屋も広々、海の幸の美味しい夕食をいただき、温泉のお陰で次の日も歩ける足を取戻しました。

宿の廊下の壁面には、ほど良い大きさの絵が沢山飾られていて画廊の気分で見ました。翌朝、早起きの内藤さんは散歩がてら近くにある施設などのロケーションを確かめてくれたとのことお話し

た。

朝食後、ロビーで百円也のセルフサービスのコーヒーでひと息の後、バスで元箱根に出て、旧街道の石畳へ、山道に敷き詰められた石の道は人がすれ違える位の幅でこの道を辿れば山の向う側に出られる有難い道だったことは理解できました。この道をつくった人達の労苦が忍ばれます。

私ことになりませんが、三島の曾祖父や祖母の長姉が横浜の銀行や学校へくる時、箱根を駕籠で越えたものだとも聞いたものですが、それはもしやこの道か？とも思

いながら歩きました。

箱根は楽をしに出かけてばかりでしたが、いろいろな楽しみ方のあることを知る良い機会でした。上越の思い出を共有する方々との交流は、お世話になるばかりで申し訳なく思いますが、有難く嬉しいことです。



不思議な訣れ

昭島市 佐藤光子（東城町二丁目出身）

「水のいのち」という合唱曲は、高野先生が高田で書いた詩であり、よく歌われている「蓮の花」という曲ももちろんです。ところが、高田近辺に合唱団が幾つもあったも、そのことが知られていないように、歌われてもいない様子。とても残念に思われるのです。私はあの合唱団（混声合唱団コロ・ソ・フィア）を高田に一度招いて、それらの曲を聴いてもらいたい。「蓮の花コンサート」とでも名づけて、実現したいと思っています。

（大変大掛かりになりますので、市を挙げてのことになり、インターネット役員の方にも、文化協会にも、上越タイムスにも、その意向は話してあります。）

その話を指揮者鈴木茂明氏の奥様にテラツとしましたところ、「喜んで。是非。けれど、あの曲は聴く人はもちろん感動し

ますが、歌う方がもつとずっと感動します。高田で、聴いていただくのではなく、皆さんと一緒に歌いたいですね。」「でも突然では、無理ですよね。」「いいえ、合唱団の方は楽譜が読めるのですから、事前に主人が数回指揮をしに行つて、一緒に練習して歌えば、大丈夫ですよ。」と。

以前、私は上野の東京文化会館の大ホールで、「光の輪」の八つの合唱団員600人が壇上で水のいのちの大合唱をしたのを聴いて、鳥肌が立ったのです。大勢なら大勢なだけ、素晴らしい合唱です。高田近辺の合唱団が一堂に会して、鈴木氏の指導でコンサートが開けたら――、そして高田にその歌をしつかり根

づかせる――というのが、私の夢なのです。「佐藤はそんな夢を描いている」と感じながら拙著「水澄めり」を読んで頂ければ幸

いですが、高野先生は、敬語表現を嫌われ、いつも「彼・高野」と書くようにと指示されましたので、文中は常体で書いています。

* * * *

拙著の前半は、私の俳句三十五句を詩人の高野喜久雄が鑑賞し、後半は高野と中学生の時に出会い、約半世紀の空白を経て再会し、彼が死去するまでの交流を描いたエッセイです。

佐渡出身の高野は、一九四八年から十四年間高田農業高校の数学教師でした。

ものを書き散らしていた十四歳の私に、既に詩人として活躍していた高野は、「あなたには物を書く資質がある」と言ったのでした。「詩人」のその言葉に、私は有頂天になりました。

ハイデガーを耽読し、人間存在の意味を問いつける彼の詩は、哲学的でメタファーを駆使し、大変難解で、「私の詩を本当に理解してくれたのは、鮎川信夫と高田三郎の二人だけだろう」と彼自身言っていたくらいです。六月に亡くなつた宗左近氏は、「高野の詩はノーベル賞級」と評価し、彼の詩をよく引用しました。けれど、高野の鋭い批評などは日本の詩壇からは理解されなかつたようです。彼は詩作を男子一生の仕事とは思わなくなり、

「真なるもの求める事」こそ、この世に生まれてきての、生きることの意味ではない



か」と、専門の数学に没頭し、一九八二年に「円周率の公式」を発見しました。二〇〇二年、東大の金田教授のグループによつて主計算に用いられ、一兆二千四百十一億桁の世界記録を打ち立てたのです。これにより「高野公式」が認知され、それまでシュテルマーの公式だった数学史は塗り替えられて、高野喜久雄の名前が刻まれたのです。

一方、彼の詩が作曲家高田三郎氏目のに留まり、五編の詩から「水のいのち」という合唱組曲が生まれました。詩と曲の素晴らしい融合により、合唱曲として最大のヒットとなり、「日本の第九」といわれるまでになつて歌われています。その歌詞が伊語に訳され、イタリアに紹介されると、「日本にこんな詩人がいるとは！」とイタリアの詩壇は驚き、彼の話を聴きたいと、何度もイタリアに招聘しました。それを機に、三十年ほどのブランクを

経て彼は再び詩を書き始めました。去年の秋には、イタリアで国際文学賞の最高賞と、国際詩人賞を受賞しました。彼の宗教的哲学的な詩は、西洋人の肌に入ったのでしょうか。東洋人で最も身近な詩人として、受け容れられたのです。

日本の詩人といえば、ヨーロッパでは高野が挙げられるようです。9・11の事件の後、ある団体が世界の主な詩人や哲学者に平和へのコメントを求め、日本では高野に。彼は詩で応え、子息明彦氏東大大学院教授が英訳し、他の人たちの言葉と共に銅版に刻まれて、各国を回っているとのこと。

そのような実績を積んで逝った彼でしたが、実像は、気位が高く、農業高校の教師時代の生徒への接し方は、冷たくて厳しかったために、懐かしく思い出される教師ではなかったようです。

教壇での彼を知らず、七十歳過ぎのシャイな彼に再会した私には、信じられないことなのですが。

合唱曲「水のいのち」は「合唱する人たちは憧れの曲。聴く人も歌う人も感動して涙が出る」といわれている名曲です。生徒に敬遠されていた彼に、どうしてそのような詩が書けたのだらうか——。「天才」と言われる彼は、彼自身、どうすることも出来ない欠けたものがあること

を自覚していたからではないか。その自覚があったからこそ、「見えない翼 一途な翼 ある限り のぼれ のぼれ のぼりゆけ のぼりゆけ」と終章で繰り返し、人間のあり方、理想の姿を歌い上げている——。「水のいのち」は、自分の切なる願いをこそ詩に託したので、人の心を打つものになっているのではないか。

そのため、晩年には、彼が少し変わることで出来たのではないかと分析すると納得できるのです。

あと一つ、彼の逝去後ずっと考えていることがあるのです。

「藤沢の病院へは、五月二十八日の火曜日に行きます」。四月三十日の彼からのメールに予約した日が書かれていました。二十八日、こゝ緒致しましょうか。——え、二十八日は日曜日ですけれど」と、その夜返信しました。

彼は物置の片づけをしていて腰を痛め、コルセットをして通院していたのです。奥様を三年前に亡くされ、鎌倉で独り暮らしでした。

いつもは直ぐに返事があるのに、翌日の昼になっても返信がありません。一日の夕方、日にちの確認のために電話を試みました。

「父は今朝、食道静脈瘤破裂で亡くなりました。通夜や葬儀は身内だけです」。

その打ち合わせをしているところで。今、お電話を頂いたのも、こゝ縁です。父が大変お世話になりましたので、お骨を拾っていただけないでしょうかと、明彦氏。言葉もありませんでした。

後日「お別れの会」を開くので、身内以外は彼の親友三好十郎研究家の田中卓之氏と私だけがお骨を拾ったのでした。まるで私にお骨を拾うようにというサインのような、最期のメールでした。

以前、私が彼のことを書いた文を、「美化されて書いてあって恥ずかしい」と言い、その後書かせなかった。

今年に入って、「その人にしか書けないものを書くのがエッセイです。あなたとの出会いからのことを、書いておくといいね」と、今までの彼では考えられないことを、突然言ったのです。しかも、初校に目を通し、「良く纏めたね」と満足そうでした。

内容を確かめたうえで、完成も見ずに突然の逝去でした。

高野先生、人は死ぬ時、予感があるのでしょうか。

黄泉に吠く夾竹桃は白ですか

光子



高野喜久雄先生



新風舎刊
電話：03-5775-5040
定価：945円（税込）

Jネットの大先輩

星野清三郎さん

大正生まれの九十三歳、高田中学三十三回生、海兵六十三期生、元海軍少佐。
戦後海上自衛隊統合幕僚会議事務局長



星野さん(左)

(現統合幕僚監部)、海将。

投稿をお願いしたのですが、「高田中学四〇回生の小林栄一君のことを書きたいが、筆が進まない」とのことでした。因みに小林さんは海兵出身の元軍人さんで、フリッピン沖で撃沈されるも、多くの乗組員をカッターで救助したと伝えられています。

ご本人も一九四五昭和二十年四月 菊水一号作戦(菊水作戦)に第二水雷戦隊通信参謀、海軍少佐として軽巡「矢矧」に乗り組み、坊ノ岬沖海戦で沈没されるも、駆逐艦「初霜」に救助される。

随想には「佐藤策次先生を偲ぶ」があります。佐藤先生は高田中学の教師、直江津市長を歴任された方です。

(編集部内藤)

野口春雄さん

Jネット顧問、九十二歳。多方面で活躍されて居られますが、こんな所でも大活躍されました。

今好評上映中の映画「フラガール」は、エネルギー革命で閉鎖が迫る昭和四十年、寂れた常磐炭鉱の町の活性化を目指す人々が地元の若い女性によるフラダンスショーを企画した「常磐ハワイアンセンター」を開業させるまでの苦労話がテーマです。

このシナリオの功労者が、当時常磐炭田の総務部長で「常磐ハワイアンセン

ター」開業の責任者をして居られた野口さんでした。

炭鉱で働いていた、嫌がる娘さん達を説得に説得を重ね、フラダンスの主役にしたのです。第一号は野口さんの秘書のお方と聞いております。炭鉱閉山での失業問題も起こさずに転進に成功させたのです。これを頭に入れて映画を鑑賞されたら、もつともっと楽しい鑑賞が出来るのではないのでしょうか。Jネット会報十七号にもこのことに触れております。

(編集部内藤)



野口さん

玉井 輝さん

幼少の頃、野口さんと同じ広場で遊んだ思い出があるとおっしゃる高田女学校三〇回卒の玉井さんもお元気で活躍されています。毎年娘さん、お孫さん、曾孫さんと一緒にＪネット交流会にも参加されています。

時々「お元気で」に投稿されており、大のＪネットファンです。

上越市民の歌にも応募もされました。選にもれましたが、ご紹介します。大正口マンを感じさせ、且つ力強い歌詞です。

一、

黎明の妙高殿として、

千歳閣し来たる君子の姿

豊かな雪どけ、水は田畑を潤ほし

恵まれた我が上越はそよ風に、

緑まはゆく波打つ街

さあ頭を上げよ

我が街日本一上越

二、

恵まれた資源、海に、山に、

天の恵みを生かせ

脚並揃えて進もうよ

杳音高く一・二・一・二気の揃う街

歴史に文化にと先人に続け、

育む町上越

三、

歌に名高い、米山山は、

夕映の美しいまち

慈母のご両手を広げて

抱擁してくれる山

明日の幸せを祈り進め

上越頸城平野は小金波

皆さんのご健康と一層のご活躍を期待
しましょう。

(編集部 岡村)



うみてらす名立にて 娘さん、お孫さん、曾孫さんに囲まれて



娘さん2人に囲まれて

名古屋サロン

元気である。本当に元気が良い。多分、今、日本で一番元気の良いのが、愛知県であり、名古屋であり、名古屋の人である。Jネットの名古屋の人も負けずに元気だ。

九月二日(土)午後六時。例年通り名古屋駅の真上にある名古屋マリオットアソシアホテルの十五階コーヒーション「バーゴラ」で名古屋サロンが開催された。これも例年通り肝煎の尾原勝利さんの開会の挨拶で開宴。乾杯。

高級ホテルのレストランで飲み放題、食べ放題で、Jネットから千円の補助があるものの、一人四千円はお得である。次いで、太田会長の挨拶の後は、これも例年通り、楽しい語らいの場となった。

私は日頃から、名古屋に住む人を尊敬している。というより、むしろ畏敬の念を

持っていると云った方が良いかも知れない。

私が、最初に名古屋へ来たときに、名古屋駅を名駅(ヌイエキ)といい、東新町(正しくはヒガシシンマチ)を「トウシンチョウ」という名古屋の人々の超効率の良さに驚かされた。これは多分、発想の豊かさ、思考の自由さからのものだと思ふ。その結果、名古屋には「ひつまぶし」「味噌煮込み」「天むす」、と他にはない、独創的な食べ物が限りなくある。

旧斐太村の飛田新田出身で、名古屋に十分に骨を埋めてしまった友人が元気だった頃、名古屋で「みそかつ」を「馳走してくれたことがあった。食べるまで、味噌に衣をつけて揚げたものだと思ひ込んでいた私は、中に肉が入っていたので大変驚いたことを思い出す。

出張の度に名古屋の喫茶店のモーニング

サービスには感心させられるし、手羽先チエーン店は東京をはじめ全国を凌駕しつつある。

越後から名古屋に来られた方々は、異文化の中で大変なご苦労があったのだと思う。でも、ついには、名古屋の良さを自身の中に吸収し、名古屋を制覇された方々の集まりといっても良いと思ふ。

日本の中心が名古屋の方へ移動しつつある今日、越後上越の本場に目ざすべき方向を教示してくれるのは、名古屋に住むJネットの方々なのだと思う。

Jネット名古屋 万歳。

(編集部)





東京サロン

東京では毎月第二水曜日にサロンを開催しております。

お酒が入りお喋りが始まりますが、皆さんに聞いて頂く公式のお話し時間はお一人一分です。皆さんが公平に機会を持てるようにするためです。但し新人さんと久しぶりの珍客は三分、持ち寄った話題を提供して話の種にしております。

因みに参加者は、二十代の若者から八

十代前半のお元気さんで、今年度四月十二人、五月十八人、六月十六人、七月二十二人、八月十七人、九月二十人、十月二十一人、十一月十七人で平均十八人です。千円会費の楽しい一時です。初めてのの方も是非足を運んで下さい。楽しい出会いがきつとあります。ロマンスが生まれるかも知れませんよ。

(編集部)



「夢フェスタ」の ボランティア体験

北 佐藤静子（大日出生）

「新潟県上越市です。取れたてのコシヒカリはいかがですか。上杉謙信の義の塩は、いかがですか」。最初は小さな声で、そのうち、思いつき大きな声を張り上げて、東京の真ん真ん中、日々谷公園でのふるさと上越市のPR。それはそれは爽快な一日でした。

九月にお送りいただいた「ネットふるさと上越」だよりに「全国合併市町村夢フェスタ2006」に上越市もPRコーナーを出展するので、当日のボランティアを募集します。とお知らせがありました。前々から一度体験してみたいと思っていた東京での上越市のPRです。早速ボランティアに申し込みました。後日、担当課からの案内をいただきましたので、わくわくして当日を待ちました。

実施期間の中日十月十四日（土）は、高く鯨雲の浮かんだ絶好の開催日よりと

なりました。八時三十分、会場の日比谷公園に到着。開始時刻の九時を前にして、どんどん人が集まってきました。

上越市の出展は、中程にありました。担当の方、ボランティアの方との挨拶が済んで、ピンクのはんてんと名札が渡され、早速、活動開始です。パンフレットを渡し、地図で観光名所を説明したり。また、大きな声で、目の前にある名産品（はず麺、義の塩、コシヒカリ、翁あられ、揚げ煎餅、継続だんご、干だら等）をPRしたりしました。人の流れの中で上越市にゆかりの方は、立ち止まり、懐かしそうに名産品を手に取り、購入する人も多くありました。それから、新潟県上越市つてどの辺ですか。ああ、ここね。随分大きいんですね。貼つてある地図を指して説明。ぜひ上越市へおいでください。と、大勢の人に声をかけました。おかげさまで三時過ぎには、

名産品の山も小さくなっていました。そして「お疲れ様でした。」と担当の方の挨拶を受けて、三時半にボランティア活動は終わりました。

今年はこの「夢フェスタ」は二年目であり、来年も予定されているとのこと。願わくば、お酒は試飲だけではなく、販売もあつたら良いな。また、コシヒカリは、二キロ入りのほかに、五〇〇グラム入り、一キログラム入りも思いました。

後日、市長よりお礼状をいただきました。貴重な体験をさせていただきましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。



安全・安心な上越の特産品販売「ふるさと市場」

「ふるさと市場」は、ふるさとを離れて暮らしている皆さんにお米などの上越市の特産品を通信販売するシステムで、これまでにも沢山の皆さんからご利用いただいております。

その特徴は、

一 安全安心です。

例えば、適期田植えやあぜ道に除草剤を撒かない運動、化学肥料や農薬の使用量三〇％削減など、他の地域に先駆けて安全安心な米を、手間を惜しまずに栽培しています。

二 送料が無料です。

会員の皆さんからお申し込みいただく場合、送料が無料です。例えば五kg、一、五〇〇円のお米を購入いただいた場合、通常七〇〇円前後の送料が必要となりますが、本市場では送料をＪネットが負担しま

す。申込者以外の方にもお送りしますので、ご贈答にもご利用いただけるお得な通信販売です。

三 地元の特産品購入でふるさとを支援
上越の特産品を購入し、ふるさとの農業や産業の支援をお願いします。

昨年十一月の開設以来、およそ一五〇万円の売り上げがありました。皆さんのますますのご利用をお願いします。

注文方法

十月のたよりに同封したカタログや「Ｊネット会員専用」ご注文用紙」をご利用ください。（カタログや注文用紙が必要な場合は、事務局にご連絡いただければお送りします。）

「Ｊネット会員専用」ご注文用紙」に必要事項を記入して、事務局宛に郵送もしくはFAXでお送りください。

お問合せ、ご注文はＪネット事務局まで
Ｊネット事務局

〒九四三―八六〇―

上越市木田一丁目一番三号

上越市役所企画政策課内

FAX 〇二五―五二六―八三六三

TEL 〇二五―五二六―五一二一

（内線一四五五）

E-mail kyoudou@city.joetsu.lg.jp

ふるさと上越
ネット 会員限定



「上越のおいしいお米」
通信販売のご案内




上越市農業中継所の稲刈り作業
（ふるさと観光センター）

(農)源広域生産組合（吉川区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
①－１	こしひかり 減農薬減化学肥料栽培	5 kg	3,500 円

(財)大島農業振興公社（大島区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
②－１	おおしま育ち 白米	5 kg	2,800 円
②－２	おおしま育ち 白米	10 kg	5,600 円

手づくり百人協同組合（安塚区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
③－１	安塚 棚田のはさかけ米（雪中貯蔵）	5kg	3,500 円
③－２	安塚 棚田のはさかけ米（雪中貯蔵）	10kg	7,000 円

(財)牧農林業振興公社（牧区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
④－１	牧産コシヒカリ 100%	5kg	2,800 円
④－２	牧産コシヒカリ 100%（7分づき）	5kg	2,800 円
④－３	牧産こがねもち 100%《限定 36 個販売》	5kg	2,800 円

味の謎蔵・特選米販売部（三和区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
⑤－１	さんわ産純粋コシヒカリ	5 kg	3,300 円
⑤－２	さんわ産純粋コシヒカリ	10 kg	6,000 円

(有)グリーンファーム清里（清里区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
⑥－１	清里産コシヒカリ	5 kg	2,700 円
⑥－２	清里産コシヒカリ	27 kg	12,500 円

(有)名立テクニカルファーム（名立区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
⑦－１	名立のコシヒカリ（白米）	10 kg	5,000 円
⑦－２	名立のコシヒカリ（白米）	5 kg	2,500 円

(農)大潟ナショナルカントリー（大潟区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
⑧－１	特選コシヒカリ	5kg	2,900 円

(有)朝日池総合農場（大潟区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
⑨－１	NPO法人 赤トンボ認証 JAS・有機栽培米コシヒカリ 100%	5kg	3,500 円
⑩－１	県認証栽培米コシヒカリ 100%	5kg	2,900 円

柿崎雪むろ利用組合（柿崎区）

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
⑪－１	新潟県認証 コシヒカリ	5kg	3,200 円

⑪-2	新潟県認証 コシヒカリ (雪中貯蔵米)	5kg	3,450 円
⑪-3	新潟県認証 コシヒカリ (雪中貯蔵・無洗米)	5kg	3,500 円
⑫-1	慣行栽培 コシヒカリ	5kg	2,500 円
⑫-2	慣行栽培 コシヒカリ (無洗米)	5kg	2,550 円

頸城建設(株)不動産産部(浦川原区)

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
⑬-1	NPO 法人 地球の土を救う会認証 J A S・有機栽培米コシヒカリ(ハサ掛け)100%	5kg (1kg×5個)	8,400 円
⑬-2	有機肥料による農薬・化学肥料を使わない米 特別栽培米コシヒカリ 100%	5kg	6,300 円
⑬-3	有機肥料による農薬・化学肥料を使わない米 特別栽培米コシヒカリ(無洗米)100%	5kg	6,825 円
⑬-4	有機肥料による農薬・化学肥料を使わない米 特別栽培米コシヒカリ(玄米)100%	5kg	5,775 円
⑭-1	有機肥料による農薬・化学肥料を使わない米 特別栽培米こがねもち 100%	5kg	6,300 円

⑬⑭の商品は、いずれもご注文により 1Kg, 2Kg, 5Kg 入りを用意できます。

(財)浦川原農業振興公社(浦川原区)

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
⑮-1	浦川原産コシヒカリ	5 kg	2,500 円
⑮-2	浦川原産コシヒカリ	10 kg	5,000 円

正善寺工房(NPO 法人 食の工房ネットワーク)(上越市域)

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
⑯-1	(株)アフアス認証センター認証 J A S・有機栽培米 コシヒカリ 100%	5kg	4,200 円
⑯-2	(株)アフアス認証センター認証 特別栽培米 コシヒカリ 100%	5kg	3,675 円
⑯-3	新潟県認証 特別栽培米 コシヒカリ 100%	5kg	3,255 円
⑯-4	慣行栽培米 コシヒカリ 100%	5kg	2,940 円
⑯-5	無洗米慣行栽培米 コシヒカリ 100%	5kg	3,040 円
⑯-6	(株)アフアス認証センター認証 特別栽培米 紫黒米(もち米)	1kg	1,575 円
⑯-7	(株)アフアス認証センター認証 特別栽培米 こがねもち(もち米)	2kg	1,575 円
⑯-8	(株)アフアス認証センター認証 特別栽培米 紫黒米(うるち米)	1kg	1,575 円
⑯-9	(株)アフアス認証センター認証 特別栽培米 低タンパク米(春陽)	5kg	3,675 円

「金谷山さくら千本の会」 環境優秀賞を受賞

上席 石黒康嗣

上越市では平成十年から、資源の有効利用や自然の保護等を通して環境保護に貢献した個人、団体、企業を表彰してきました。我が「金谷山さくら千本の会」は活動を始めて四年目、実績の面では多少の躊躇もありましたが、推薦してくださる方もあり第九回上越市環境大賞を指して応募いたしました。市の環境大賞表彰審査会で審査した結果「環境優秀賞」に決定いただき、六月二十五日に市民プラザで開かれた「環境市民の集い」の表彰式で賞状と楯を頂いてきました。七月九日には有志三十八人が集い祝賀会を開催して、数年後の大賞を目指して活動を続けて行くことを確認しました。

なお、今年度の表彰者は次の方々でした。
環境大賞 桑取小学校（平成十七年優秀賞）

環境優秀賞（企業の部）沖フリンテッド
サーキット

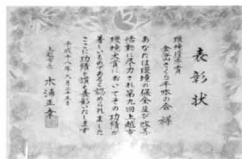
環境優秀賞（個人の部）柳澤敬三郎（港町二）

環境優秀賞（団体の部）金谷山さくら千本の会

なお、今年の活動は、二十年ぶりの豪雪による桜樹と遊歩道の被害復旧、マイタケの伏せ込み、ナメコの櫓木作り、猛暑の中での下草刈りと作業を進めてきました。それに加えて、県造林協会から寄付いただいた木製ベンチ三脚を展望広場に据付、一服しながら高田の街、直江津の海、米山を一望できるスポットを造りました。

また、十月二十九日の第五回桜植樹祭ではオオヤマザクラ、ヤマザクラ、カスミザクラ、エドヒガンザクラを五十本（三）

三・五mの大きな物を植樹しました。
今後とも皆様のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



環境優秀賞の賞状と盾です。気の合った仲間達の数と継続の成果です。
無償の汗を流した満足げな笑顔… たまたま写真に写っていない諸君の
カオもこんなに素晴らしいんですよ……
これからも皆な元気で力をあわせましょう。



自然の猛威に驚くばかり



やれやれ、満足笑顔の仲間達

上越市だより

ジュニアゴルフで日本代表

高田聖斗(まさと)君

三歳からゴルフを始め、今ではハンディ二・七。ドライバーの飛距離は二八〇ヤード。

七月に米国コロラド州で開催されたアメリカジュニア大会に高田聖斗(まさと)選手(本町二丁目、城東中三年)が日本代表として出場しました。

八月に霞ヶ関カンツリー(ハービーコース)で行われた日本ジュニア中学の部で初日七八二日目六九プラス五で回り、



五位入賞。因みに優勝者は七十七・七三でブラス。

郷土出身には金井清一プロがいます。

金井プロの根性とマナーを持ち合わせれば鬼に金棒です。注目して下さい、将来が期待される郷土のプレイヤーです。

日本バスケット界のホープ

五十嵐圭 選手

直江津・春日新田小―東中出身の日立サンロッカーズ。五十嵐圭選手が八月に行われた世界選手権大会に出場しました。試合は一勝四敗でしたが一八〇センチ、六十七キロの体格を生かしスピードあるドリブルでの得点多くチームに大貢献しました。

中学卒業後地元を離れ福井の北陸高から中大に進学後、日立サンロッカーズに



所属、男子日本代表のポイントガードとして活躍中です。

義の塩づくり体験

上越市立谷浜小学校六年生が九月に谷浜海岸で昔ながらの塩作りを体験しました。

観光協会の指導を受けながら、びびらで筋を付けた塩田に海水を均一にまき、塩分を含んだ砂をかき集めるなど二連の作業を体験しました。かつては盛んに塩作りが行われていましたが、再び「義の塩」として地域の伝統を守ろうとしております。



北陸新幹線建設進む

平成二十六年年度の完成を目指して工事はおおむね順調に進んでおります。飯山トンネルの上越側出口(板倉区から脇野田の新駅周辺)に向かう熊川新田、下米沢、中島新田、広島、上新バイパスBVの各区間は竣工しました。関川をまたぐ橋梁は渇水期の秋からの着工予定です。新駅予定地周辺では弥生時代の釜蓋遺跡の発掘作業による設計変更をしながら進められています。



上越出身の日本画家展 柴田長俊さん

現代日本画壇で活躍するJネット理事
柴田さんの「柴田長俊：こころの光景」展
が十一月十一日から十二月二十二日迄、
上越市立総合博物館で開催されていま
す。今回は故郷の風景を描いた「頸城野十
二景」、「祈りの風景」、「良寛の風景」など
三十七点を展示し
ております。頸城
の十二景は青田川
の桜や高田公園の
夜景、はさ木など
失われた風景もあ
り、自分の心の中
に残っている風景
を造形的に表した
と話しておられま
した。



映画「ふみ子の海」原作本の新版 市川信夫さん

児童福祉文化賞を受賞した市川信夫さ
んの「ふみ子の海」新版が発売されていま
す。

新版は五百ページ。映画「ふみ子の海」
の主人公鈴木理子さんが上下浜の海岸で
たずむ力バール写真を使い、本文の文字
はゆつたりと組まれ、漢字には振り仮名
付きで読みやすくなっております。理論

「くびき野ものがたり」出版 杉きみ子さん

児童文学作家の杉きみ子さん、上越タ
イムス連載の「くびき野ものがたり」が一
冊の本になり発売されております。挿絵
は杉さんと名コンビの村山陽さんが担当、
杉さんが愛情を
込めて故郷上越
に贈る珠玉の作
品集です。

一冊千九百九
十五円、上越市
内の書店、上越
タイムスで取り
扱っております。



お墓参り代行します

こんな記事が上越タイムスに載ってい
ました。お盆などに帰省できない人が実
家へ花を届けるサービスと墓参も代行



するお仕事です。特にお墓をお守りする
実家が無い方へのサービスを広めようと
しております。「お墓は先祖様との縁の
要、心を込めてお参りします」と仰ってい
ます。貴方はどうなされますか。

鮭が儀明川を遡上！

十月二十七日の夕方、高田駅から帰京
しようとして儀明川のほとりを歩いていた
大きな鮭が何匹も遡上しているのが目に
入り、正直、大変驚いた。

歩きながら数えてみると三千匹は軽く
超えていた。

多くはベアで、浅い水深の中を上流目
指しており、なかには長旅で白く傷つい
た痛ましいものもいた。

早速、カメラを取り出し、撮影したのが
この写真である。

私はしばらく遡上する鮭を眺めていた
が、周辺の住民は、興味が無いのか、全く
気付いていない様子である。

鮭の遡上は北海道の石狩川をはじめ各
地で貴重な観光資源になっている。

新潟県内でも阿賀野川や村上の三面川
の遡上は有名で、多くの観光客が見物に
訪れる。Jネットの会報でも掲載したこ
とのある桑取川も最近では多くの観光客を
集めている様である。このような貴重な
観光資源が街中の川にあるのだからこれ

を利用しない手はないだろうと思う。
せめて、駅前の橋の欄干にでも「鮭が遡
上しているのが見られます。」などの高札
を立てたらよいのではないかと思う。

上流の産卵場所にスペースを確保し、
水中カメラで産卵の様子を見せられるよ
うな施設があつたら良いのでは。さらに
その映像をインターネットの動画で放映
しては如何かと思う。

上越に住む友人の話では正善寺川にも
鮭が遡上するそうだから、併せてPRし、
鮭の帰る美しい街のイメージをアピール
したら良いのではないだろうか。

(和)



上越市民の歌 「このふるさとを」

新しい上越市民の歌が完成しました。

一、山のめぐみ豊かに 水は流れる

海のめぐみ豊かに 風は光る

きこえてくるのは 山の歌

きこえてくるのは 海の歌

ああ きこえてくるのは 希望の歌

ひとりひとりの 歌声が 今

風となり 光となって

明るくつむ このまちを

美しいふるさとを 抱きしめていこう

どこまでも どこまでも

二、やわらかに雪あかり 心をてらす

元気にまつりばやし 夢もおどる

きこえてくるのは 父の歌

きこえてくるのは 母の歌

ああ きこえてくるのは 船出の歌

ひとりひとりの やさしさが 今

虹となり 未来となって

大きくはぐくむ このまちを

大好きなふるさとを 歩きつづけていこう

いつまでも いつまでも

新しい上越市民の歌

このふるさとを

坂水良嗣（低声用）

作 詞 上原みゆき
補作詞 杉 みき子
作 曲 後藤 丹




言葉一つひとつに
願いを込めて
作詞者 上原みゆき(板倉区)



誰の心にも残る
ふるさとを愛唱歌に
補作詞者 杉みき子(文学者)



シンプルで覚えやすい
メロディーに
作曲家 後藤丹(上越教育大教授)

熊の大量出沒！なぜ？

「ママシが出ます。」

「熊が出ます。」

「熊が出ました。」

昨年七月、友人二人と上越市の郊外を散策した。最近、山の入口などにある「入山禁止」の看板が目につく。車で来て山菜をこっそり持っていつてしまうのだから、それで生計を立てている農家は大変だ。だから「山菜取るべからず」からお願ひ調の「山菜は農家の貴重な収入源です。」とか「山菜はこの村の大切な財産です。」などがある。

多分、それでも効果が無いよう「ママシが出ます。」熊が出ます。「熊が出ました。」とある。さらに「先週、熊が出ました。」とリアリティで説得を試みている。しかし、その看板は一週間前の新しいものではなく、かなり時間がたった古ぼけたものだったからおかしい。

本当に熊がでました。

「本当に熊が出ました。」といつても狼少年ならぬ熊小父さん。中々信用してもらえないかも？でも、本当に熊が出沒しており、上越市だけで昨年三十二件、三市で二、三六頭だそうである。今年はさらにそれを大幅に上回る様子。

その原因はいろいろ言われているが基本的にエサ不足のようだ。色々言われている原因を挙げると次のようになる。

- ・天然記念物として保護されているカモシカが増えすぎ、奥山には食べ物が無いので里に出てくる。
- ・熊の住む奥山と人里との緩衝地帯だった里山が、エネルギー変化、高齢化、過疎化、林業の衰退などで手入れを行わなくなったために荒れ、里山が熊の住みやすい環境になってしまった。

まった。

・最近では農村でも犬の放し飼いが禁止されているため、これまで里近くへ来るとうるさかった犬が居ないため、容易に人里へ近づける。

先月のＪネットの交流会で行った牧区では農家の柿の木に鈴なりの苦の柿の実が一つも無かった。熊が来るので、除去したそうだが。また、県境にある関田山系のブナ林に入った際、誰かが鈴をつけて歩いていた。さすがに地元の人には…と思つたら東京から参加した理事の藤沢さんだった。

流石に勉強会の幹事…と大いに感心させられた。

(編集部)

熊目撃情報

十月以降に上越市で目撃された目撃情報を次に示す。

十月

一日 中郷区藤澤地内の洪江川辺

四日 板倉区東山寺地内の農道

九日 牧区神谷地内の山中

十日 中郷区坂本地内

十六日 安塚区須川地内の菱ヶ岳腹

十八日 大字塩稻荷地内の山中道路

二十三日 名立区西蒲生田地内の県道

二十五日 中郷区稲荷山地内の畑

二十九日 名立区東飛山地内農道

十一月

一日 上正善寺地内の住宅裏

二日 大島区大島地内の市道

二日 上越市立下保育園付近

十三日 板倉区別所地内

十七日 清里区赤池地内の林道

二十五日 牧区東松ノ木地内の山林



クマを引き寄せるカキの実を除去

上越市の人口は 二十万八千人

平成十七年国勢調査の第一次基本集計結果（確定数）が、総務省統計局から平成十八年十月三十一日に公表されました。その結果上越市は、次のとおりです。

○上越市の確定値

人口 二〇八、〇八二人（男一〇〇、八八四人、女一〇七、一九八人）
世帯数 六九、一六〇世帯

【人口の概要】

・平成十七年十月一日現在の上越市の人口は二〇八、〇八二人で、前回調査の十二年に比べ三、七八八人、一・八％減少している。

・人口を男女別にみると、男性が一〇〇、八八四人、女性が一〇七、一九八人で、女性が六、三二四人多く、人口性比（女性百人に対する男性の数）は、

平成十二年の九四・九から九四・一と低下している。

・人口を年齢別にみると、十五歳未満人口は二九、九一七人（市人口の十四・四％）、十五～六十四歳人口は二六、四九一人（同六〇・八％）、六十五歳以上人口は五〇、三四一人（同二四・二％）となっている。これを平成十二年と比べると、それぞれ、〇・九ポイント低下、二・〇ポイント低下、二・三ポイント上昇している。

・市内に在住する外国人は一、〇五八人で、平成十二年に比べ四十八人、四・八％増加している。

【世帯の概要】

・上越市の一般世帯数は六七、一八六世帯で、平成十二年に比べ三四〇世帯、〇・五％増加している。また、一般

世帯のうち二人世帯は一七、四二三世帯（一般世帯の二五・七％）と最も多くなっている。一般世帯の一世帯当たり人員は、平成十二年の三・〇八人から二・九八人と減少している。

・世帯の家族類型をみると、核家族世帯は三五、四四六世帯（一般世帯の五二・三％）で、このうち夫婦のみの世帯は一、八二七世帯（同一八・九％）、夫婦と子供から成る世帯は一七、〇五六世帯（同二五・二％）となっている。

また、単独世帯は一四、〇八八世帯（同二〇・八％）となっている。

・六十五歳以上親族のいる一般世帯は三三、〇一六世帯（一般世帯の四八・七％）で、平成十二年に比べ一、八二五世帯、五・九％増加している。

・住居の状態をみると、住宅に住む一般世帯の持ち家率は七八・五％で、平成十二年に比べ持ち家世帯数は二・〇％増加している。また、住宅に住む一般世帯の一世帯当たり延べ面積は、平成十二年の二三五・一平方メートルから一三六・〇平方メートルと広くなっている。

（編集部）

上越市の人口と世帯数

	平成17年	平成12年	増減数
人口	208,082	211,870	△ 3,788
男	100,884	103,149	△ 2,265
女	107,198	108,721	△ 1,523
総世帯数	69,160	67,654	1,506

国会での雪解け問答

一九七七年三月、衆院予算委員会。質問したのは木島喜兵衛議員、答弁は当時の海部俊樹文相だった。

木島「もし、雪が解けたらどうなるという試験問題が出たら大臣はどう答えますか。」

文相「私は水になると答えると思う」

木島「一般にはそれが合格。が、わが新潟は豪雪で春を待ちわびています。雪がとけたら春になると答えたら、それは誤りになるのです。雪が水になるのは《理》の世界、春になるのは《情》の世界です。同じノーベル賞でも湯川さんは百点で川端さんは零点。雪国で春を待つ人はみんな×(バツ)なのです。何故、私がこういうか。今の小中学校ではテストの点数で評価し、五段階評価が行われている。個性や、どこまで理解したか文章で書く評価は必要です。だが、テストの点数だけで順位をきめ、子供を評価、序列をつけるのはどうかと思います。学歴社会をなくすためにも評価をやめるよう指導されませんか。」

本屋で「雪国大全 佐藤国雄著(恒文社・本体三〇〇円)の本が目についたので、購入してみた。四〇〇ページ近い大著で帯のコピーに、
「二十世紀に忘れた故郷の暮らしと風景」
「忘れられない雪国の生活と歴史を記録に残す」
とPR。

著者は一九三二年生まれの小千谷出身で、一九五九年朝日新聞社入社。編集委員などを経て現在、地方ジャーナリストとして活躍とある。

江戸時代のベストセラー鈴木牧之の『北越雪譜』の現代版といったら持ち上げ過ぎか。面白い話が載っていたので紹介する。



教育の荒廃は三十年前に始まっている、
た?といえるかも知れない。

(編集部)

シリーズ「上越市出身者のちよつといひ店」

㈱ヨシハシグループ 「蔵の桜」

さいたま市

山口峰男（五智出身）

「蔵の桜・銀座ナイン店」は、旬の鮮魚、蟹料理をはじめ桜肉（馬肉）料理そして品種豊富な新潟の地酒を存分に楽しめるお店。

この店をはじめ、都内（と言っても銀座、日本橋、新橋、渋谷、品川、浜松町、恵比寿など主に山手線内）に和食中心のグループ店十七店舗を展開している㈱ヨシハシ・グループを紹介しします。

社長の安島和夫氏は上越市吉川区出身、私の後輩で直江津高校を昭和四十五年に卒業そして進学の為上京し、大学を卒業と同時にこの商売に入ったと聞いています。安島氏はJネットの会員です。

また、新宿新潟県人会の会長、東京吉川会の会長などの多くの要職にあり、精力的な活動をされています。

十七店舗もあるので一つ一つ紹介はで

きませんが、このうちの「蔵の桜銀座ナイン店」を紹介しましょう。

銀座通りを新橋方向に歩いて首都高速道路と交差している「銀座ナイン三号館二階」にこの店があります。安物の居酒屋チェーン店とは一味も二味も違って「活魚の造り」「煮魚」「焼魚」「栃尾のあぶら揚げのねぎ焼き」「地鶏の玉子焼」「佐渡の一夜干しスルメ」「桜肉」「自家製さつまあげ」「海鮮サラダ」「手作りコロッケ」「新潟名物へぎそば」それに「各種デザート」等々。お品書きは書ききれない程の盛沢山。この中でも私がいつも注文し、他人にもおすすめめは、そのときどきに仕入れた旬のお造り「漁師煮付け」「栃尾のあぶら揚げ」「佐渡の一夜干しスルメ」「海鮮サラダ」です。これに普段手に入らない四十種類以上の新潟の銘酒を楽しみながらの一献は格別です。

私は割烹旅館に生れたものですから、元来魚料理が大好きで、今までなかなか気に入った店に巡りあわなかったのですが、十年程前に高校の同窓会で安島氏に始めて会ってから行きつけになり、いろんな人をお連れしましたが、皆、気に入ってくれています。料金の高い店はいくらでもあります。しかしこのグループ店はどの店もほとんどメニューが変わらないこと、料金も同じで、リーズナブルな料金で楽しめます。二名から六、八十名の宴会までOKです。

ふるさと上越ネットの会員証を各店の店長に見せれば、それなりのサービスをしてもらえと思っていますので…。

いずれにしても「ものは試し」。最寄りの店に一回立寄ってみて下さい。腕ききの板長料理と酒に満足されるはずです。人数が多いときは電話での予約をおすすめします。

「蔵の桜・銀座ナイン店」

所在地 中央区銀座八・五

銀座ナイン三号館二階

電話 〇三六二五八三八三

営業時間（平日）十六時～〇時

（土曜）十六時～二十三時半

（日祝）予約のみ営業

この他のグループ店を紹介しします。

「蔵の桜 庵 品川イーストワンタワー店」

港区港南二一六一 品川イーストワンタワー一〇一

電話 〇三六七二八二九二一

「蔵の桜 浜松町店」

港区浜松町一七二 八八大浜松町ビル八階

電話 〇三二五七七〇五〇二一

「蔵の桜 茶屋 三軒茶屋店」

世田谷区太子堂四一三三一 遊楽ビル二階

電話 〇三二五四三〇五七五五

「草庵みずく 浜松町店」

港区浜松町一七二 八八大浜松町ビル八階



安島さん

電話 〇三二五七七七一九一〇

〔魚山匠 新宿南口店〕

渋谷区代々木二二三八 エスト新宿ビル地下一階

電話 〇三二三三七四一二三〇

〔桜庵 渋谷店〕

渋谷区宇田川町四一一 第一共同ビル地下二階

電話 〇三二五四五五七三五〇

〔東京の蔵 新宿西口店〕

新宿区西新宿一一九一三 青鈴ビル地下一階

電話 〇三二五三二一七七八

〔東京の蔵 恵比寿店〕

渋谷区恵比寿南一一八一 STMビル四階

電話 〇三二五七二五五七二

〔東京の蔵 浜松町店〕

港区浜松町二六一二 藤和浜松町ビル地下一階

電話 〇三二五七三三四五六〇

〔東京の蔵 品川港南口店〕

港区港南一一五一五 池田ビル二階

電話 〇三二五七六九一〇六二七

〔東京の蔵 日本橋店〕

中央区日本橋二二二一五 テイトビル地下一階

電話 〇三二五六一六七七七五

〔東京の蔵 銀座六丁目店〕

中央区銀座六一二一七 銀座新星ビル地下一階

電話 〇三二六二七四〇〇二六

〔ぼんやの蔵 新宿三丁目店〕

新宿区新宿三一一一〇 エクレ新宿ビル二〇六

電話 〇三二三三三三〇一四四

〔若松茶屋〕

新宿区若松町三四一五 坂口若松町ビル一階

電話 〇三二三三〇八一七三七

〔東京の蔵 西新宿七丁目店〕

新宿区西新宿七一四一九 第一規格一階

電話 〇三二三三六五一二九六六

〔老鉄 八重洲店〕

中央区八重洲二六一五 八重洲五の五ビル一階

電話 〇三二五二九九六一五五



「上越市出身者のちよつといい店」 ◆渋谷 割烹『猿山』

和食処で、料理もお酒もおいしい店である。これからのシーズンには「ぶぐ刺」がうまい。

女将は、柿崎出身の旧姓相沢さん。実家が相沢布団店といえは、知っている人も多い。ご主人の苗字は猿山さん。それを店名にした。

創業以来、まもなく四十年というから老舗である。一時期はお店をいくつも経営していたようであるが、現在は同じビルの四階にあるバブ『茶蘭華』（電話〇三三四〇七一七六七）のみである。席は、部屋が三部屋、テーブル、カウンターとあり、雰囲気は落ちついていて良い。お客様のご接待から仲間同志の会合まで、



猿山さん（左）

幅広く対応してくれる。お酒は上越の銘酒「君の井」である。

お店の場所は渋谷駅から宮益坂を登り一つ目の路地を左へ入ったつき当りのビルで、入口は少し左に入った右側の階段を五段ほど登った所にある。

住所 〒一五〇〇〇〇二

東京都渋谷区渋谷一五 一六

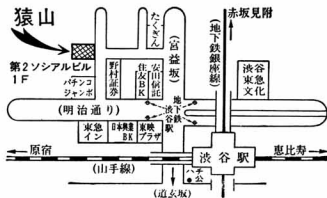
電話 〇三三四〇〇〇五五

FAX 〇三三四〇〇〇五九三

営業 土曜、日曜、祝日休み

十一時三十分～十四時〇〇分

十七時〇〇分～二十三時〇〇分（L.O.）



「上越市出身者のちよつといい店」 ◆上野駅前『居酒屋949』

美味しい串焼きと無国籍料理が自慢のお店です。

JR上野駅から徒歩一分。不忍口を出てガード下の広い道路を渡ると有名なアメ横。その一本左の道を入ると右手に串焼大血居酒屋（949）の看板が見える。串焼料理が主だが、鯉の土佐造りからホルモン焼、スペイン風田舎オムレツ、小籠包、タコライス、...と多彩である。

でも何よりも安い。その上、日月火は十五%オフである。席はカウンターから二階の部屋までと広く、個室から四十名の宴会もOKである。

オーナーは牧区出身の内藤洋子さん。上野近くへ出掛けたら、是非、寄りたいお店である。



住所 〒一〇〇〇〇五

東京都台東区上野六 一一一五

電話 〇三三八三一九四九〇

TEL/FAX

Email naito@u949.csde.to

HP http://u949.csde.to

営業 年中無休

月曜・木曜 十六時三十分～二十四時

〇〇分

金曜 十六時三十分～四時三〇分

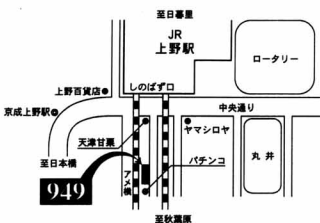
分

土曜・祝日前 十六時三十分～二十四時

三〇分

日曜・祝日 十六時三十分～二十三時

三〇分





伊崎さん

「上越市出身者のちよつといい店」
◆千駄ヶ谷 イタリアン
『アッラ・クチーナ・デル・ソール』
 千駄ヶ谷駅と代々木駅の間にある北参道交差点より、千駄ヶ谷駅に向って一つの路地を右へ入るとレンガ造りのお店が見つかる。
 オーナシェフは、上越市出身の伊崎裕之さん。高田高校から立命館大学産業社会学部で環境問題を専攻。卒業後、イタリア料理の道へ。フイートニ「グラナータ」「イル・ポツカローネ」「ADK」を経て、二〇〇一年二月七日にオープン。「食事は人間の体をつくるもの。その大切さをわかって欲しい」というだけあって、こだわりの野菜中心で、意外とシンプルだが驚くほどおいしい。「バスター・ベジタール」

というレシピ本も出版。女性には人気のある店だ。

住所 〒二五一〇〇五二

東京都渋谷区千駄ヶ谷四二二一四

電話 〇三三四七九一四六四〇

(TEL/FAX)

E-mail: sole-izaki@ezweb.ne.jp

営業 日曜・祝日休み

十一時三〇分〜十四時〇〇分
 十八時〇〇分〜二十一時三〇分(L.O.)



「上越市出身者のちよつといい店」
◆湯島『信玄』

何故か上越出身者の店名が信玄である。

上野界隈では、謙信よりも名前が通っているということか。

お店の雰囲気は良い。

以前は、超高級割烹だったそうだが、最近の客層に合わせて、リーズナブルな価格設定にしたという。

今頃のシーズンは、メインの「タコしやぶ」がおすすめでか。ふくコースなどもあり、本格的な季節料理も楽しめる。湯島の隠れ家的存在である。

オーナの飯倉光信さんは、上越市東本町三丁目の出身。「越後高田雪の会」の会長も務める。



飯倉さん

住所 〒一三二〇〇三四

東京都文京区湯島三三六一一〇

ひびきビル一階

電話 〇三三三三一一八七七

(TEL/FAX)

HP www.uninet.ne.jp/shingen/

営業 日曜・祝日休み

十七時〇〇分〜二十三時三〇分





地に密着した総合タウン誌

月刊 **JACK LAND**
上越エリア情報誌 ジャックランド

320円

毎月25日発売

定期購読承ります

新潟県上越市上島464-1 エリート2F
TEL.025-524-4275 FAX.025-524-4451
e-mail j-4275@lily.ocn.ne.jp



(有)上越商業サービス公社

上越観光物産センター内
上越市藤野新田175-1 〒943-0171
TEL 025-545-0123 FAX 025-545-1113
営業時間 9時～18時
休館日 月曜日、祝日の翌日

上越の名産・特産品を一堂に取り揃えています。
お土産選びにぜひご利用ください。

取扱商品例

塩するめ、丸干イカ、かまぼこ、ワイン、日本酒
米、そば、ちまき、おかき、笹だんご、各種銘菓

通信販売も行っています。Jネット会員の皆様が利用
される場合は、送料は不要です（送料はJネットが
負担します）。ご贈答等にもご利用ください。

NPO法人 食の工房ネットワーク

NPO法人・食の工房ネットワークは、私たちが目指す

「“食べる側”と“作る側”を本来の姿につなぐ活動」を中心に、
お互いの立場から結びつきを大切に、畑から食卓までの流
れの中で、安全性や品質に“透明性”を求めることを共通の目
的として設立いたしました。消費者と生産者がお互いに通じ
ながら、安全な地場の生産品を、安心して食べることが出来る
ように“食に関するプラットフォームづくり”を進めています。



上越市の田園と妙高山系

こんな活動をしています

- 農産物・加工品に関する情報収集及び情報発信
- 農産加工品に関する調査及び研究
- 地場農産物・加工品の消費拡大事業
- 自然を通じて子供たちに五感を感じさせる活動

これらのコンサルティング・教育・講習を
中心に事業展開しています。

〒943-0831 新潟県上越市下正善寺1027-2 正善寺工房内
TEL・FAX 025-523-0621

介護付有料老人ホームおよびショートステイ

サンクス高田

上越地方で初めての有料老人ホームです。傳徳の郷はぜひご覧ください。

□介護付有料老人ホーム（3階～5階、全個室 54室）

- ・老後は故郷の高田で暮らしたい。
 - ・単身になってみて、兄弟、友人、知人のいる故郷の上越に転居したい。
 - ・高田のまちなかの終身利用複層のホームで安心して暮らしたい。
- このようなお客様が東京方面からご入居されています。
ホームは、現在満室の状況ですが、随時ご相談承っております。

□ショートステイ（2階 全個室 20室）

- ・故郷の両親の暮らしが気かりで、時々世話をして欲しい。
 - ・故郷の両親には、健康相談、話し相手、友達作り等の楽しい生活環境で過ごしてほしい。
 - ・ご旅行、出張、転勤の時は両親の介護を頼みたい。
 - ・冠婚葬祭や行事の時は、両親の介護を頼みたい。
 - ・ご家族の介護疲れの軽減、身体を休めたい。
- ショートステイは、全て個室で、プライバシーとくつろぎの生活を優先させ、介護、看護、機能訓練、生活相談のサービスを提供しております。

□主なスタッフ

クマナージャー、生活相談員、看護職員、介護員、栄養士など、約40
人以上のスタッフがおります。
また協働医療機関は、近隣の4つの医療機関と連携しています。

□お問合せ先（資料をお求めください）

介護付有料老人ホームおよびショートステイ サンクス高田
〒943-0892 上越市町3丁目10番11号
TEL. 025-525-7038 FAX. 025-526-7236
E-mail: info@sankusutakada.co.jp

株式会社 くびき野ライフスタイル研究所



創業明治23年 伝統の味 岩の原ワイン

～日本の本格的ワイン発祥の地～

株式会社 岩の原葡萄園

TEL 025-528-4002 新潟県上越市北方1223番地
URL <http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/>

日本の本格ワイン発祥の地「岩の原葡萄園」は、明治23年の創業以来、3世紀にわたって高品質のワインを世に送り出してきました。
お蔭様で上越市の代表的な特産品として、多くの方に愛飲いただいております。
さて、弊社では、遠方にお住まいで近づく岩の原ワイン取扱店がない方に向けて、『岩の原ワイン みゆき会』の会員を募集いたしております。
ワイン10,500円以上のご注文で送料無料、ご入会プレゼントや、お買上げのポイントによるプレゼントなど、色々の特典がございますので、Jネット会員の皆様も是非ご利用下さい。
お問合せ 株式会社岩の原葡萄園 025-528-4002

山里のすべてが湯ったり村です。

月明 蒼穹
紫昏 叢雲
花薫 豊饒
風鳴 伝説
瀬音 狭霧
寂靜 星雨



十人十色の湯の郷
くわとり湯の里 上越市皆口601
TEL 541-2611 FAX 541-2616

毎日、発行しています。

ふるさと
懐かしい故郷の香りや音を、
ふるさと
そして新しい故郷の風をお届けします

上越タイムス

times@joetsu.ne.jp

■ご購入のお申し込みは■

フリーダイヤル



0120-17-4243

本社/〒943-0823 新潟県上越市高土町2-4-6
TEL025-525-6666 FAX025-525-0061
<http://www.j-times.jp/>

¥ ふるさとへの便りに…
郵送は2,875円(郵送料込)

大好評
いちばがね姫
新潟県産いちばもち100%の杢つき餅を
ご家庭用にご贈答用にぜひご利用ください。

1枚1枚の個包装なので、必要な分だけ取りいただけます。

JAえちご上越
えちご上越農業協同組合 あぐりフーズ
〒942-0061 新潟県上越市春日新田5-3-11

0120-81-1093

インターネットからでもお買物できます。
「ごちそう市場」www.ja-ichiba.com

上越市の主な催し

「上越市のイベントカレンダー」より、今年度の主な催しをとりあげてみました。是非参加されませんか。
なお、都合により変更になる場合もありますので、「問合せ先」または、市の企画政策課（電話：025-526-5111）に確認してください。

■「上越の近代を拓いた先人たち～産業の近代化をもたらした人々～」展

市内それぞれの地域の歴史・文化を認識しあい、さらに地域間交流の促進を図るため、今年度から3か年、地域の歴史に足跡を残した先人たちの業績を市民の皆さまに紹介していきます。

第1回となる今年度は、明治から昭和20年以前に活躍した事業家にスポットをあて、ダイジェストで紹介します。

開催日	12月23日（土）～1月21日（日）
会場	小川未明文学館市民ギャラリー（高田図書館に併設）
問合せ先	文化振興課／電話：025-526-5111

■はしごのぼり（板倉区）

板倉方面隊第1分団針1部（針集落）と第2分団豊原第1部（高野集落）が、正月の出初式で板倉区の伝統芸能「はしごのぼり」の妙技を披露します。団員は日夜練習に励み、技術の練磨をはかり、古人が築いた伝統を守り続けています。

開催日	1月2日（火）～1月3日（水）
会場	高野町内会館前（2日）、そば処いたくら亭前駐車場（3日）、平田屋横駐車場（3日）、ラリー（高田図書館に併設）
問合せ先	上越市消防団板倉方面隊／電話：0255-78-2141

■「なつかしの民具」展

昭和30年代の高度経済成長のなかで、在来の伝統的な生活道具が影をひそめてきました。

私たちの生活で欠かすことのできなかった身の回り品を中心に、衣食住・生産産業・雪に関するなつかしい道具を紹介します。

開催日	1月4日（木）～3月29日（木）
会場	総合博物館（高田公園内）
問合せ先	上越市立総合博物館／電話：025-524-3120

■小林古径 上越コレクション展Ⅴ

これまで小林古径記念美術館で収蔵した初公開の素描作品群を中心に展示し、上越市出身で近代日本画壇を代表する古径の画業を紹介する。

開催日	1月4日（木）～3月29日（木）
会場	小林古径記念美術館・小林古径邸（高田公園内）
問合せ先	小林古径記念美術館／電話：025-523-8680

■日本スキー発祥記念館企画展「レルヒ少佐とイルマ夫人 ～夫人と語った日本の思い出～」

日本に初めて本格的なスキー術を伝えたオーストリアの軍人レルヒ少佐について、夫人と語ったであろう日本の思い出を遺族からの寄贈品を中心に紹介します。

開催日	1月10日（水）～2月25日（日）
会場	日本スキー発祥記念館（金谷山）
問合せ先	文化振興課／電話：025-526-5111



■「スキーの日」記念イベント

(財)全日本スキー連盟をはじめとしたスキー関連の全国団体が、上越市を「日本スキー発祥の地」と決めました。スキーを指導した日とされる1月12日を「スキーの日」とし、レルヒ少佐の偉業をたたえてレルヒ像への献花等の記念イベントを金谷山で行います。

開催日	1月12日(金)
会場	金谷山スキー場
問合せ先	上越市教育委員会体育課／電話：025-525-4144

■レルヒ・ウィーク

日本に初めてスキー術を伝えたオーストリアの軍人レルヒ少佐の遺徳を顕彰し開催。スキーや雪にちなんだイベントのほか、食の陣、ミニコンサートなどの数多くのイベントが開催されます。

開催日	2月3日(土)～2月11日(日)
会場	本町商店街ほか
問合せ先	レルヒ祭実行委員会事務局(観光振興課内)／電話：025-526-5111

■レルヒ祭ミニコンサート「雪のファンタジーコンサート」

毎年恒例のレルヒ祭にあわせて、上越市本町通り商店街にある雁木通りプラザにてミニコンサートを開催します。

開催日	2月3日(土)
会場	雁木通りプラザ5階コンサートホール
問合せ先	文化振興課／電話：025-526-5111

■レルヒ祭ミニコンサート「雪のファンタジーコンサート」

毎年恒例のレルヒ祭にあわせて、日本スキー発祥の地である金谷山にある日本スキー発祥記念館にてミニコンサートを開催します。

開催日	2月4日(日)
会場	日本スキー発祥記念館
問合せ先	文化振興課／電話：025-526-5111

■レルヒ祭「日本スキー発祥96周年」

日本に初めてスキー術を伝えたオーストリアの軍人レルヒ少佐の遺徳を顕彰し、また、日本スキー発祥の地上越市を広くPRするため、平成6年度から開催しています。

開催日	2月10日(土)：前夜祭、2月11日(日)：本祭
会場	金谷山スキー場ほか
問合せ先	レルヒ祭実行委員会事務局(観光振興課内)／電話：025-526-6901

■雪国行って見体験（牧区）

雪国での雪遊びを体験し、深山荘にて宿泊（温泉に浸かり郷土料理を堪能）、翌日は「牧っこ雪まつり」を十分楽しめます。

開催日	2月10日（土）～2月11日（日）
会場	牧ふれあい体験交流施設（牧区）
問合せ先	牧ふれあい体験交流施設／電話：025-529-3150

■牧っこ 雪まつり

雪像アートコンテスト、ごんぞ（わらぐつ）をどれくらい遠くまで飛ばせるかを競うごんぞとばし、雪のステージでのイベントなど、雪と楽しむ催し物です。また、多くの出店もまつりを盛り上げます。

開催日	2月11日（日）
会場	牧地区公民館前広場（牧区）
問合せ先	牧振興会／電話：025-533-5141

■寺野遊雪まつり

ゴムチューブに人を乗せて引っ張る「寺野ダービー」や雪上相撲、もちつき、お楽しみ抽選会などのイベントが行われ、フィナーレには雪に映える冬花火が打ち上げられます。

開催日	2月11日（日）予定
会場	パークみよし野（板倉区）
問合せ先	寺野遊雪まつり実行委員会／電話：0255-78-2404

■田舎暮らし体験の旅

にいがた田舎暮らし推進協議会では、2月17日からの2日間、大島区、牧区で、「田舎暮らし体験の旅」を開催します。雪国の日常生活をより身近に体験する「本格雪掘りコース」と雪国の観光を満喫する「雪国の自然・文化ふれあいコース」に分かれて、地域への理解を深めていただきます。ふるってご参加ください。

開催日	2月17日（土）～2月18日（日）
会場	大島区・牧区
問合せ先	にいがた田舎暮らし推進協議会事務局（地域振興課内）／電話：025-526-5111

■第24回 安塚スノーフェスティバル

沿道沿いに、たくさんの雪像や5万本のキャンドルが灯り、幻想の世界を演出。各地域には雪茶屋が設置されます。温かいおもてなしと、地域の元気に触れてください。

開催日	2月24日（土）～2月25日（日）
会場	安塚区内一円
問合せ先	NPO雪のふるさと安塚／電話：025-592-2004

■どうがたの郷そばまつり

長野県との県境にある標高800mの光ヶ原高原では、昼夜の寒暖差が激しく霧が多いという特性から、大変良質なそばが採れます。この機会にぜひ「光ヶ原霧下そば」をご賞味ください。

開催日	3月4日(日)(予定)
会場	筒方地区地域資源加工施設(板倉区)
問合せ先	どうがたの郷そばまつり実行委員会/電話:0255-78-4569

■ひよこの誕生

ひよこが誕生する瞬間及び孵(ふ)化した直後のひよこを展示します。生命誕生の神秘に触れることができます。

開催日	3月24日(土)～4月5日(木)
会場	上越科学館
問合せ先	上越科学館/電話:025-544-2122

■坂口記念館「坂口謹一郎博士と酒と椿の祭典」

酒の博士として親しまれた応用微生物学者 坂口謹一郎博士の顕彰展や講演会をはじめ、各種イベントなど様々な催しを開催します。

開催日	3月下旬
会場	坂口記念館(頸城区)ほか
問合せ先	上越市文化振興課/電話:025-526-5111



上越市の施設

上越市の施設を割引で利用できます。利用の際には
会員証を提示してください。()内は会員の割引料金です。



施設名	住 所 (上越市内)	電話番号	料金 (一般・個人料金)
リージョンプラザ上越 (アイスアリーナの貸料を除く)	下門前 446-2	025-544-2122	レジャープール 400 円(200 円) アイスアリーナ 800 円(400 円) インドアスタジアム 100 円(50 円) 市民プール 300 円(150 円)
上越科学館	下門前 446-2	025-544-3939	400 円(200 円)
水族博物館 (サイクルモノレールを含む)	西本町 4-19-27	025-543-2449	900 円(450 円)
オールシーズンプール	新光町 1-9-1	025-524-3130	300 円(150 円)
五智公園キャンプ場 (バンガロー使用料)	五智 6 丁目	申込先:青少年文化センター 543-6030 管理棟 545-9503	1 泊 3,500 円(1,750 円)
総合博物館 (特別展を除く)	本城町 7-7	025-524-3120	300 円(150 円)
高田城三重櫓	本城町 6-1	025-526-5915	200 円(100 円)
日本スキー発祥記念館	大貫 1453-1	025-523-3766	300 円(150 円)
くるみ家族園	東中島 2487	025-544-7440	浴場 400 円(200 円) バターゴルフ 500 円(250 円)
金谷山スキーリフト・スーパー ボブスレー	大貫 595-2	025-525-4295	リフト 100 円(50 円) ボブスレー 100 円(50 円)
海洋フィッシングセンター(えさ 代を除く)	虫生岩戸 719	025-544-2475	使用料 100 円(50 円) 貸し竿 100 円(50 円)
交通公園ゴーカート	五智 6-1569	025-543-5948	2 人乗り 200 円(100 円)
市民いこいの家	石橋 1-1-3	025-545-5270	浴場 250 円(120 円)
小林古径邸	本城町 7 番 1 号	025-525-2429	200 円(100 円)
かやぶき美術館	安塚区安塚 804-4	025-592-2048	300 円(150 円)
安塚歴史民俗資料館	安塚区安塚 609-3	025-592-2209	100 円(50 円)
浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ	浦川原区古谷島 1217-1	025-599-3810	500 円(250 円)
牧湯の里深山荘	牧区宇津保 285	025-533-6785	バターゴルフ場 1,000 円(500 円) 釣堀 (1 人 4 時間まで) 500 円(250 円)
牧歴史民俗資料館	牧区宮口 1483-1	025-533-5117	200 円(100 円)
柿崎屋内水泳プール (4~11 月)	柿崎区法音寺 392-26	025-536-3758	300 円(150 円)
鶴の浜人魚館	大潟区九戸浜 241-8	025-534-6211	風呂 500 円(350 円)、プール 700 円(400 円)
坂口記念館	頸城区鞠ノ木 148	025-530-3100	200 円(100 円)
ユートピアくびき希望館	頸城区百間町 716	025-530-2360	400 円(200 円)
頸城 B & G 海洋センター	頸城区百間町 691-1	025-530-2310	200 円(100 円)
吉川緑地等利用施設	吉川区尾神 588-1	025-547-2545	400 円(200 円)
吉川スカイピア遊ランド	吉川区坪野 1458-2	025-547-2221	400 円(200 円)
中郷ひばり荘	中郷区江口 1003-1	025-574-2401	入浴 600 円(350 円)
板倉郷土館	板倉区針 842-1	025-578-2325	100 円(50 円)
清里星のふるさと館	清里区青柳 3436-2	025-528-7227	入館料 300 円(150 円) プラネタリウム料金 300 円(150 円)
清里歴史民俗資料館	清里区岡野町 1580	025-528-3111	100 円(50 円)
三和米と酒の謎蔵	三和区大 867-1	025-532-4189	300 円(150 円)
シーサイドパーク名立	名立区名立小泊 798-1	025-537-2121	200 円(100 円)



追悼

野口春雄さんを悼む

あれだけお元気だった野口春雄さんが十二月五日夕刻逝去されました。満91歳でした。

「Jネット」創立以来の熱心な会員であり、副会長としても発展に大きく寄与されたことは皆様ご存知の通りです。野口さんのお人柄は誰もが知る「真面目」「優しい」「信念がある」「礼儀正しい」「実力がある」等々だったと思います。反面、負けず嫌いで、あるテレビ局に取材された時、リポーターが「私は高校時代バスケット部のキャプテンでした」と言われるや直ぐ「俺だってキャプテンだったワイ」と越後弁で答える子供のような天真爛漫さもお持ちでした。

ご遺族のお話しでは、上越と聞けば何をさておいても馳せ参じてしまう。誰にも負けない「ふる里」思いでした。随分以前、JRがお年寄優遇のジバングクラブを組織するや早速会員になり、年間割引特典二十五回でも足りないと思われておられたこともありました。

今年春二月赤倉にスキーに出掛け、くまどうゲレンデで私と一緒に滑るほどの元気で、確か三月だったかJネットの渋谷の例会にも出席されたと聞きました。

佐久間会長、太田会長、和久井会長時代と続くJネットの例会には欠かすことなく出席され、私の四谷の事務所に寄って会場に行くのが常で、ある時風邪気味な時に「何で体調が悪いのに」と言ったところ、「副会長としての努めだ」と出て行かれました。

Jネットに限らず、母校高田高校関係の会でも会長、役員を歴任され、中でもふる里のスポーツ選手を応援する同窓生がつくる「東京六華会」の幹事長、会長として三十有余年、母校、上越市、今の妙高市に対して、並々ならぬご尽力でメダルを贈り励まし続け、その中から多くのオリンピック選手も生まれました。

また、ふる里のため、ノルディックスキー複合の世界のトップ選手として活躍していた当時の荻原健司さんに直接交渉してスキーとユニフォームの寄贈を受け、また、妙高の横山姉妹がオリンピックで使ったスキーを貰い受け、上越スキー博物館に寄付されるなどの貢献も大きいものでした。これほどまでにふる里を大切に想った人をわたしは他に知りません。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

樫野利介



今年2月赤倉で



左より長谷川増吉、清水徹、間瀬昌代治、野口春雄、上石敏、小島崎の古き写真

編集後記

矢代川より東側には縁がなく、遠い遠い山村としか認識なかった牧区へJネットの皆さんと旅行してきました。第一印象は、こんなに近い所だったんだと言うことです。自動車社会の賜物ですね、昔の印象とは全く違いました。合併した理由が少し分かるような気がします。これから郷土の新天地を訪ねようと思っています。一緒にしませんか。

会報は歳を重ね22号の発行となりました。変わり映えしませんが、旅に出た同朋と故郷を偲び、父、母、友を思い出す話題の一助にと考えて編集してまいりました。

皆さんの率直なご意見を頂きながら、次号も頑張ろうと思っています。

どうぞご指導ください。

暖冬とはいえ寒さが日に日に増しております。

皆様 風邪など召さぬよう、ご健勝でよい新年をお迎えください。



●発行

ふるさと上越ネットワーク事務局(上越市企画・地域振興部 企画政策課内)

〒943-8601

新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111 FAX.025-526-8363

E-mail: kyoudou@city.joetsu.lg.jp

運営委員会事務局

〒150-0011

東京都渋谷区東1-26-30 渋谷イーストビル

(株)社会システム研究所内

TEL.03-3499-8299 FAX.03-3486-0986

URL <http://www.joetsu.gr.jp/>

【情報をお待ちしています】 TEL.025-526-5111(Jネット事務局)
